

関係団体等ヒアリング結果概要及び区民モニター調査結果について

1 関係団体等ヒアリング

(1) 実施概要

日付	ヒアリング対象
令和5年9月1日（金）	ボランティア団体 （分野：高齢・障害・子ども・海外支援等）
令和5年9月4日（月）	葛飾区民生委員児童委員協議会

(2) ヒアリング結果概要

【地域社会への参加促進について】

- 地域活動の担い手が不足している。社会参加へのきっかけづくりが必要である。
- コロナ禍は交流しづらく、地域活動の仕方に悩んだ。

【地域福祉の担い手の育成について】

- 社会福祉協議会や行政等と、様々なケースを想定してグループワークをやる機会があった。継続的にできれば、担い手のスキルアップや地域の支え合いにつながると思う。

【団体間の情報共有や交流する場の確保について】

- 各団体同士で、抱えている悩みや実際にあった事例を共有することが重要である。
- コロナ禍に妊娠出産した方たちが、他のお子さんを見る機会も、子育てについて先輩のお母さんから話を聞く機会もなかった。世代の違う方たちと話をする機会を確保することが重要である。
- コロナ禍で活動ができず、改めて、交流することの重要性を実感した。
- コロナ禍でSNSを通じて交流を行ったが、真意が伝わっていないと感じた。直接対話することができるコミュニティが必要である。
- 各団体間や区、関係機関と直接会う機会が定期的にあると、連携した支援がしやすくなる。

【その他】

- 地域活動の維持や発展について、思いのある人の行動だけでは難しい。民間企業を巻き込めると良い。
- 「担い手」というが、支援者がずっと支援する側とは限らないし、利用者が

ずっと利用する側とは限らない。支援者と利用者が流動的になる視点も必要である。ボランティアは、支援する側でもあり、そこに参加することが自分の居場所にもなる利用者でもある。

- 複数ある課題をまるごと相談できる体制ができたことは、とても助かる。
- 課題がある世帯に対して、どこまでサポートしていいのかわからない。

2 区民モニター調査

(1) 実施概要

調査期間	調査対象
令和5年6月12日（月）～7月3日（月）	区内在住者200名

(2) 調査結果

別紙のとおり

令和5年度
葛飾区区民モニターアンケート調査
第1回 一般モニター

報告書

- －「区公式ホームページについて」－
 - －「地域福祉について」－
 - －「区の教育政策について」－

令和5年9月



I 調査概要

1. 調査の目的

区が実施している施策や区が発信している情報等について、公募により決定した「区民モニター」から、適時かつ具体的なご意見を収集することにより、区政への活用を図るもの。

2. 調査のテーマ

- (1) 区公式ホームページについて
- (2) 地域福祉について
- (3) 区の教育政策について

3. 調査の設計

- (1) 調査対象 一般モニター200名
- (2) 調査方法 郵送での調査の配付・回収（インターネット回答併用）
- (3) 調査期間 令和5年6月12日（月）～7月3日（月）
- (4) 有効回収数 171名（郵送回収：89名、インターネット回答：82名）

4. 調査機関

株式会社都市計画21

5. 報告書の表記について

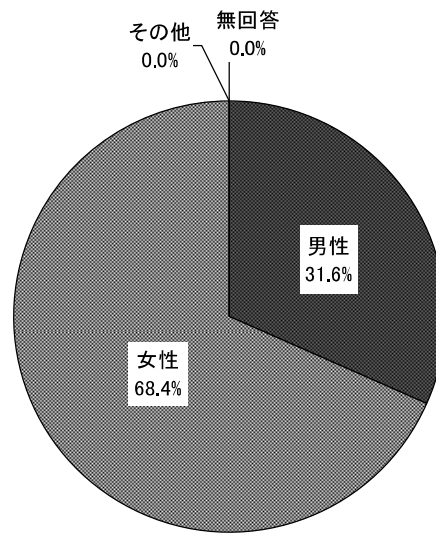
- (1) 比率は全て百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) “n”は各設問の回答数を示している。比率はnを母数として、算出している。
- (3) 複数回答の設問では、1人が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
- (4) 年齢層・年代別の20歳代には、18歳・19歳を含んでいる。

※この報告書は、区公式ホームページ（<http://www.city.katsushika.lg.jp/>）に掲載している。

（トップページ>区政情報>統計・調査>調査）

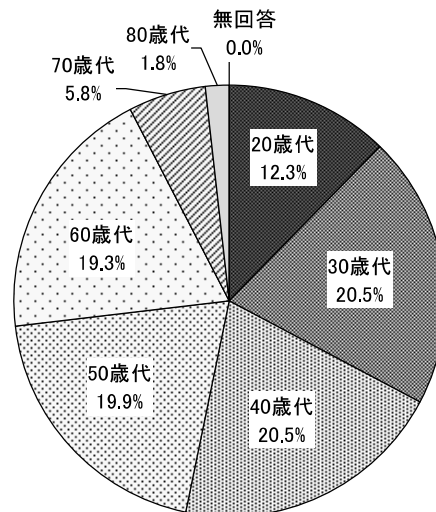
II 回答者の属性

(1) 性別



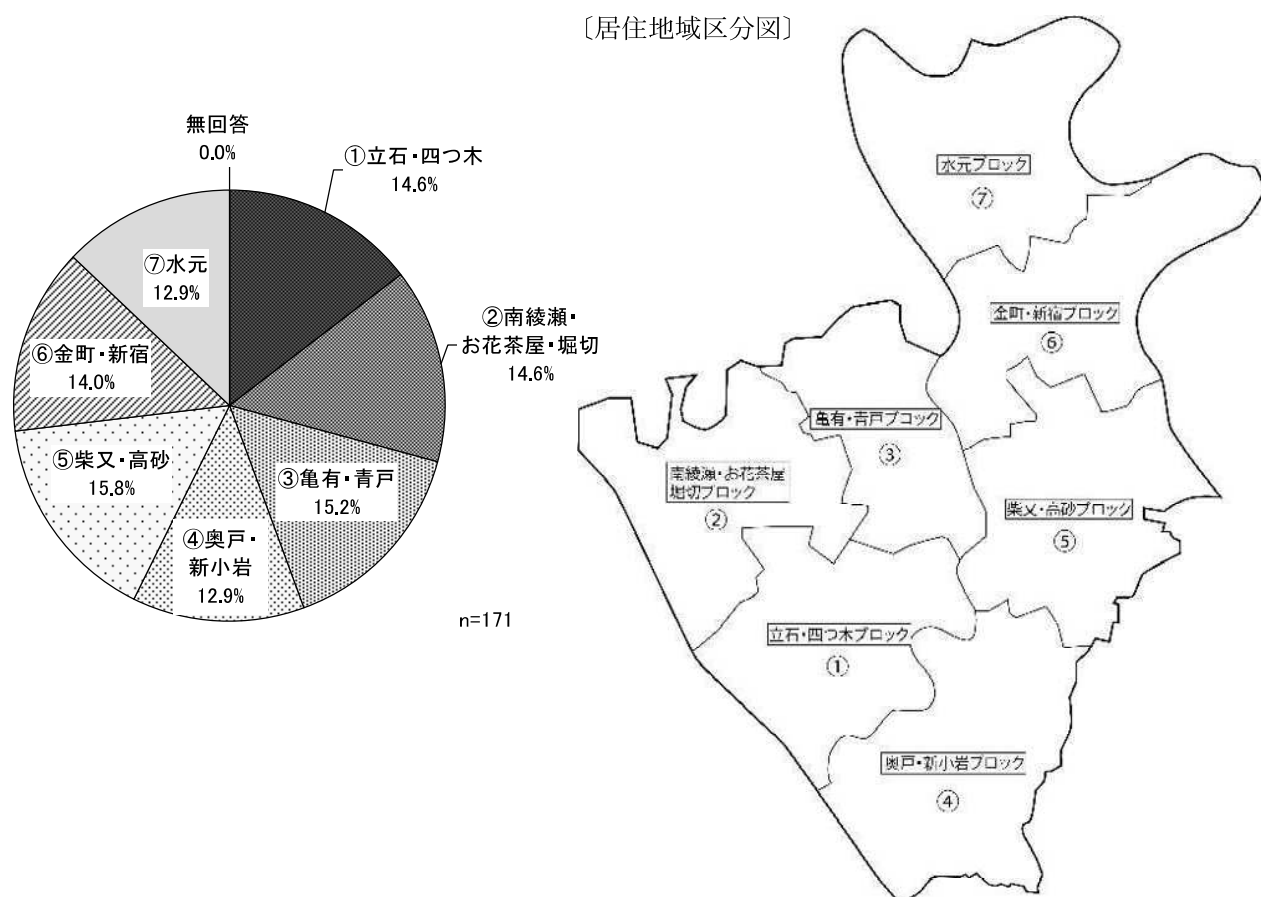
n=171

(2) 年齢層



n=171

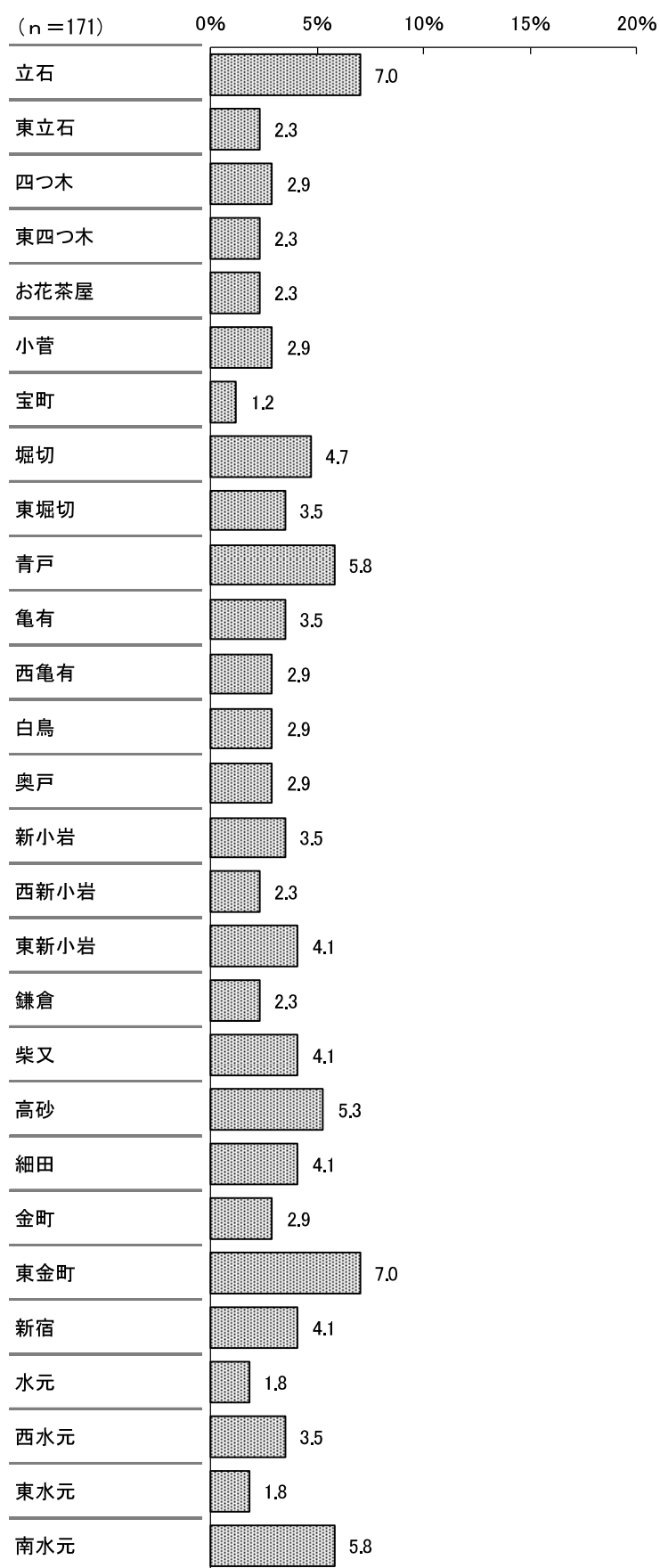
(3) 居住地域（7区分）



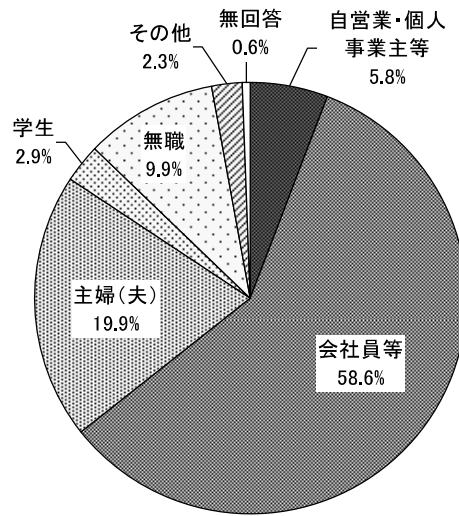
〔居住地域区分表〕

	ブロック名	町名
1	立石・四つ木ブロック	立石・東立石・四つ木・東四つ木
2	南綾瀬・お花茶屋・堀切ブロック	お花茶屋・小菅・宝町・堀切・東堀切
3	亀有・青戸ブロック	青戸・亀有・西亀有・白鳥
4	奥戸・新小岩ブロック	奥戸・新小岩・西新小岩・東新小岩
5	柴又・高砂ブロック	鎌倉・柴又・高砂・細田
6	金町・新宿ブロック	金町・東金町・新宿
7	水元ブロック	水元・西水元・東水元・南水元

(4) 居住地域 (28区分)

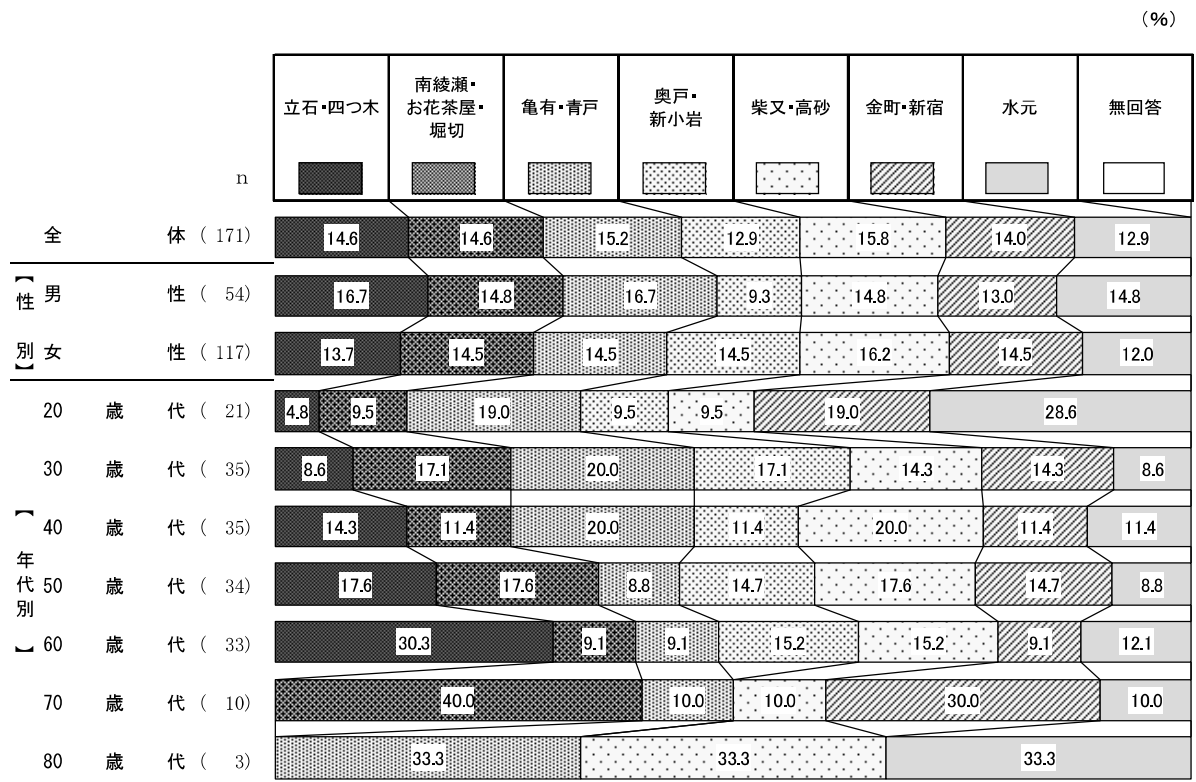


(5) 職業



n=171

(6) 居住地域別 (7区分) × 性別・年代別



2. 地域福祉について

区では、自治町会、民生委員・児童委員等様々な方とともに、地域課題の解決に取り組んでいます。今後、さらに地域の課題が多様化することが予想され、地域のつながりや支えあい
が今まで以上に大切になってきます。こうした中で、地域福祉をさらに推進していくために、
区民モニターの皆様のご意見をお伺いします。

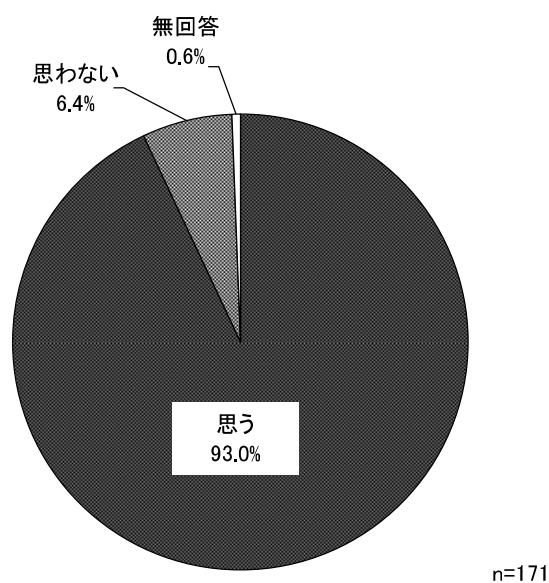
(9) 地域とのつながりの必要性

問9 あなたは、地域で安心して生活していくために、地域での活動や地域とのつながり
が必要だと思いますか？（○は1つ）

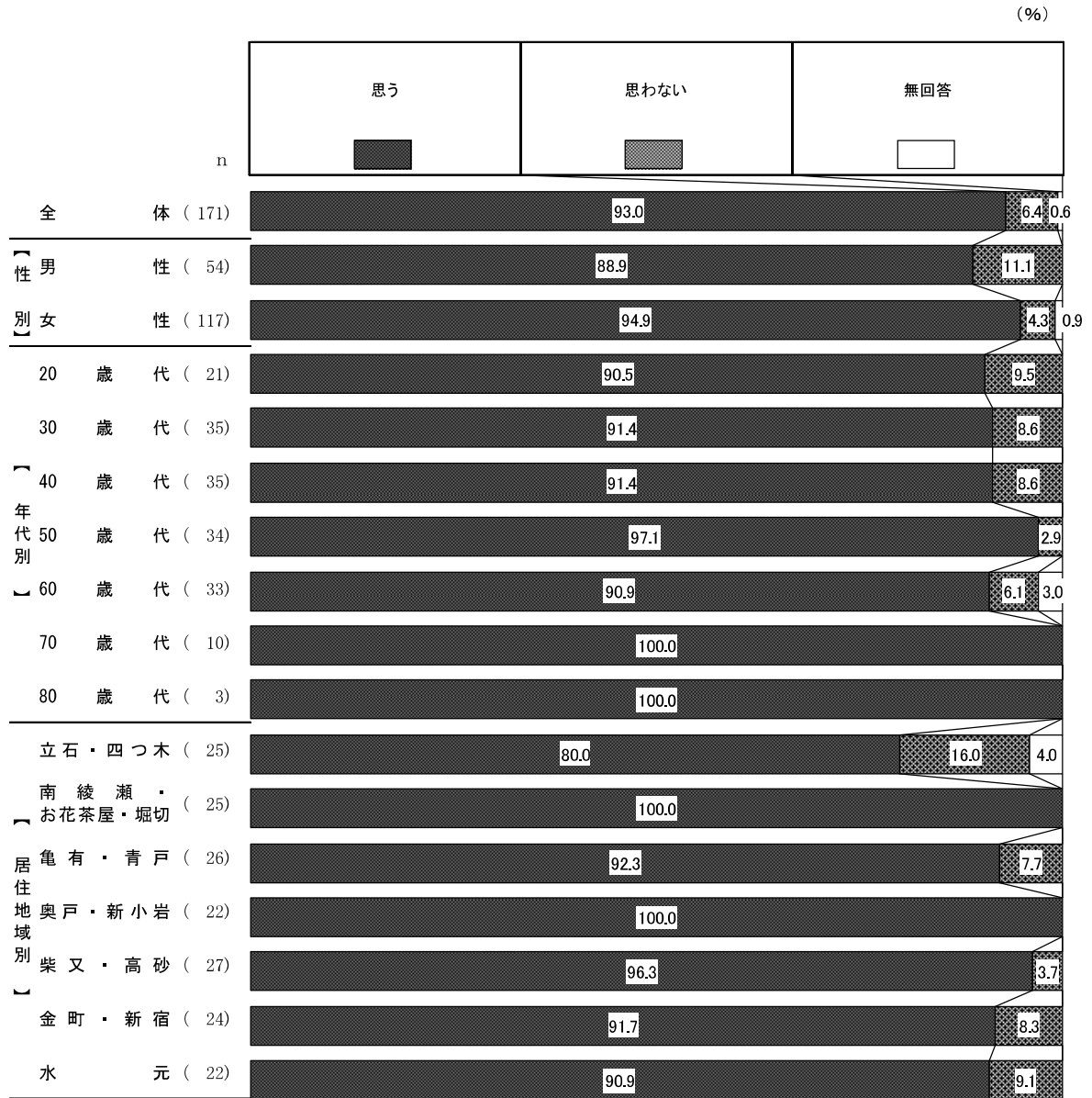
地域で安心して生活していくために、地域での活動や地域とのつながりが必要だと思うかについ
ては、93.0%の方が「思う」と回答している。

年代別で見ると、「思う」は、70歳代と80歳代で100.0%となっており、全ての年代で9割以上
となっている。

図表-15 地域とのつながりの必要性（全体）



図表-16 地域とのつながりの必要性
 (全体・性別・年代別・居住地域別)



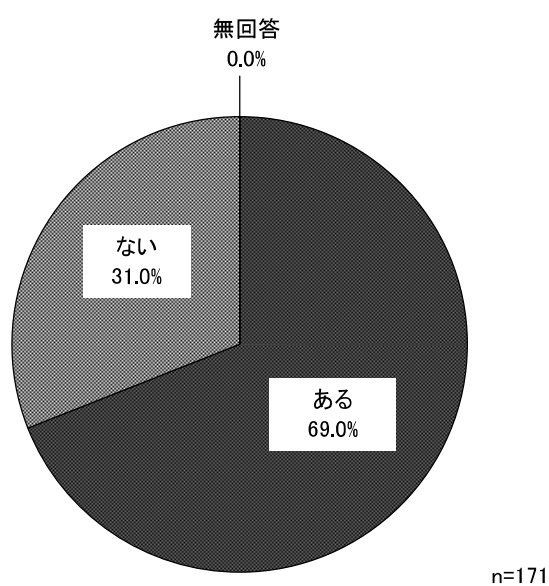
(10) 地域とのつながりの有無

問 10 あなたには、地域の人とあいさつや立ち話をするなど、地域とのつながりがありますか？（○は1つ）

地域の人とあいさつや立ち話をするなど、地域とのつながりがあるかについては、69.0%の方が「ある」と回答している。

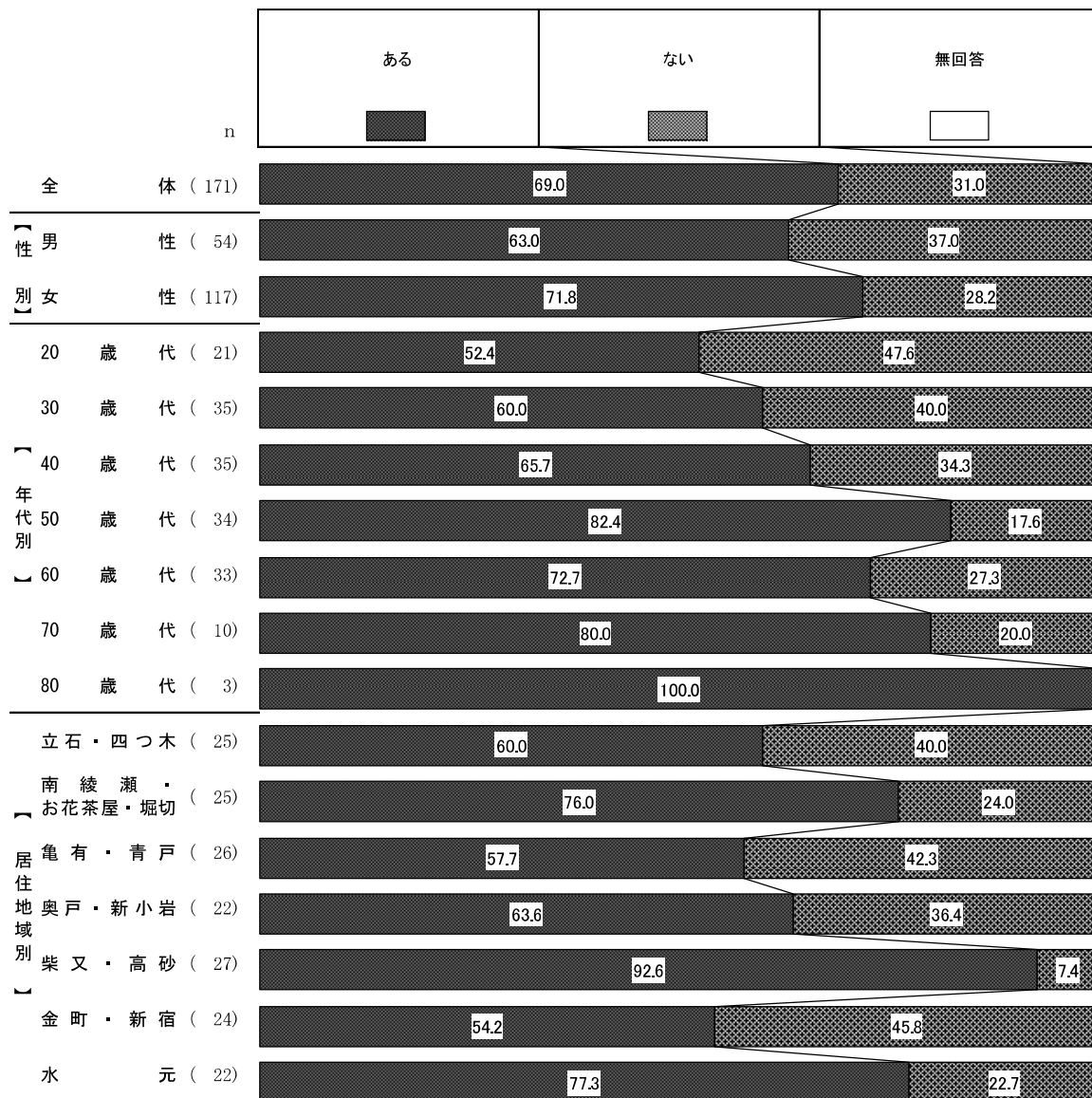
年代別でみると、「ある」は、80歳代で100.0%となっており、全ての年代で5割以上となっている。一方、「ない」は、20歳代と30歳代で4割台となっている。

図表-17 地域とのつながりの有無（全体）



図表-18 地域とのつながりの有無
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



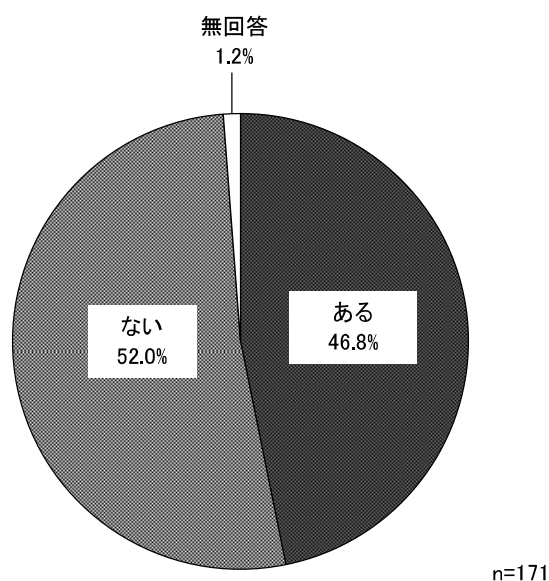
(11) 地域活動参加の有無

問 11 あなたは、地域での活動に参加したことがありますか？（○は1つ）

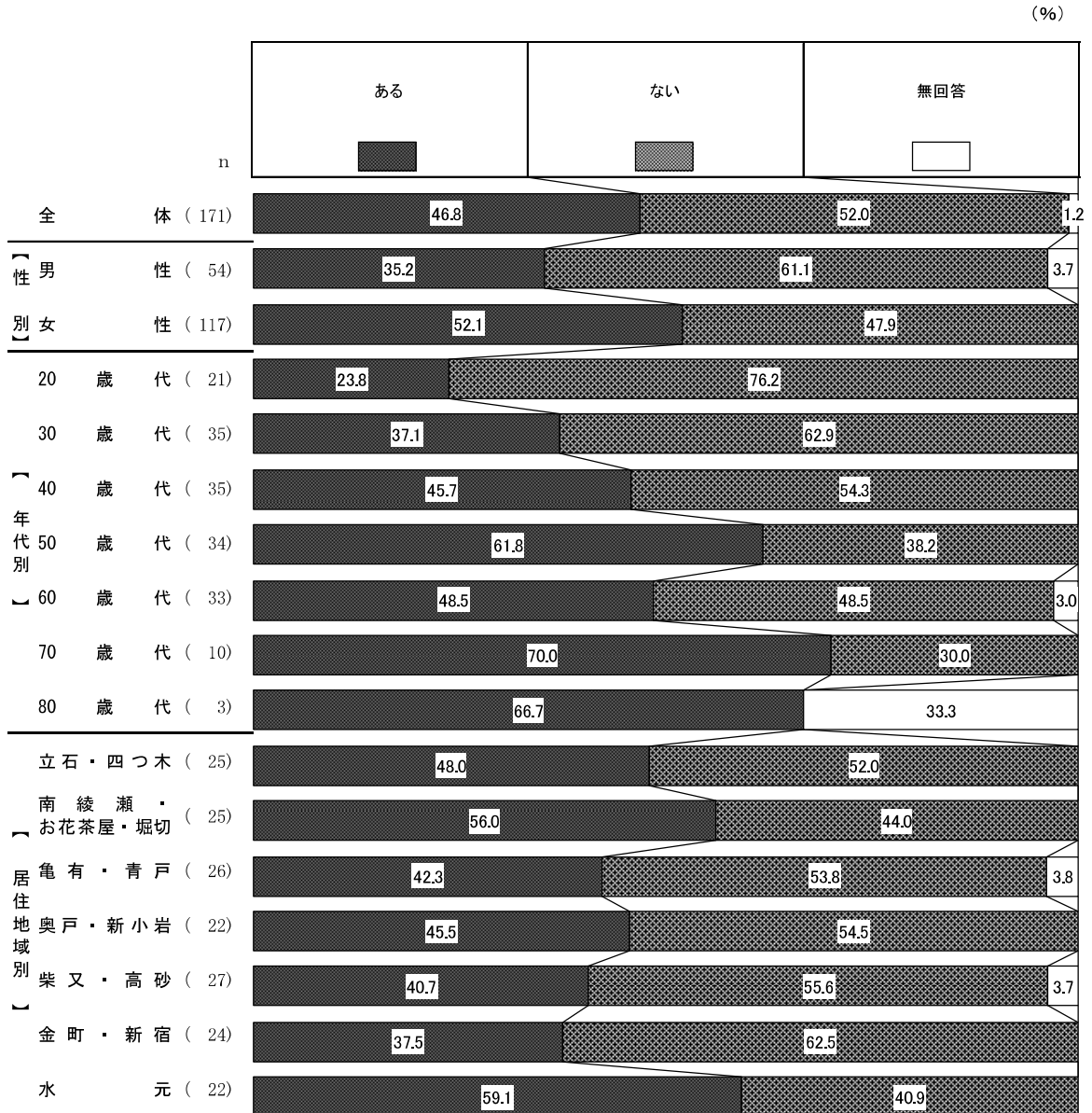
地域での活動に参加したことがあるかについては、「ある」が46.8%となっている。一方、「ない」は、52.0%となっている。

年代別で見ると、「ある」は、70歳代が70.0%で最も高く、50歳代、80歳代でも6割台となっている。一方、「ない」は、20歳代が76.2%で最も高く、次いで30歳代で62.9%となっている。

図表－19 地域活動参加の有無（全体）



図表-20 地域活動参加の有無
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(12) 参加した地域活動

問11で「1. ある」を選んだ方にお伺いします。

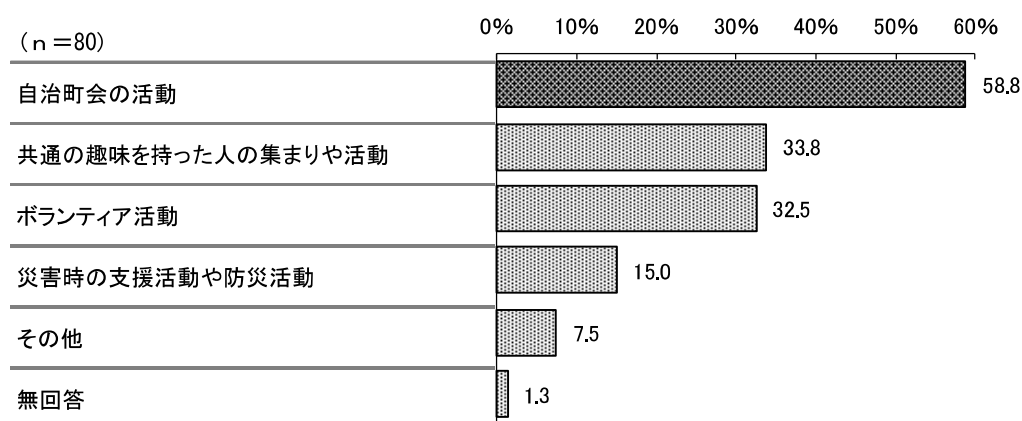
問12 あなたが参加した地域での活動はどのようなものですか？

(あてはまるものすべてに○)

参加した地域での活動については、「自治町会の活動」が58.8%で最も高く、次いで「共通の趣味を持った人の集まりや活動」が33.8%、「ボランティア活動」が32.5%となっている。

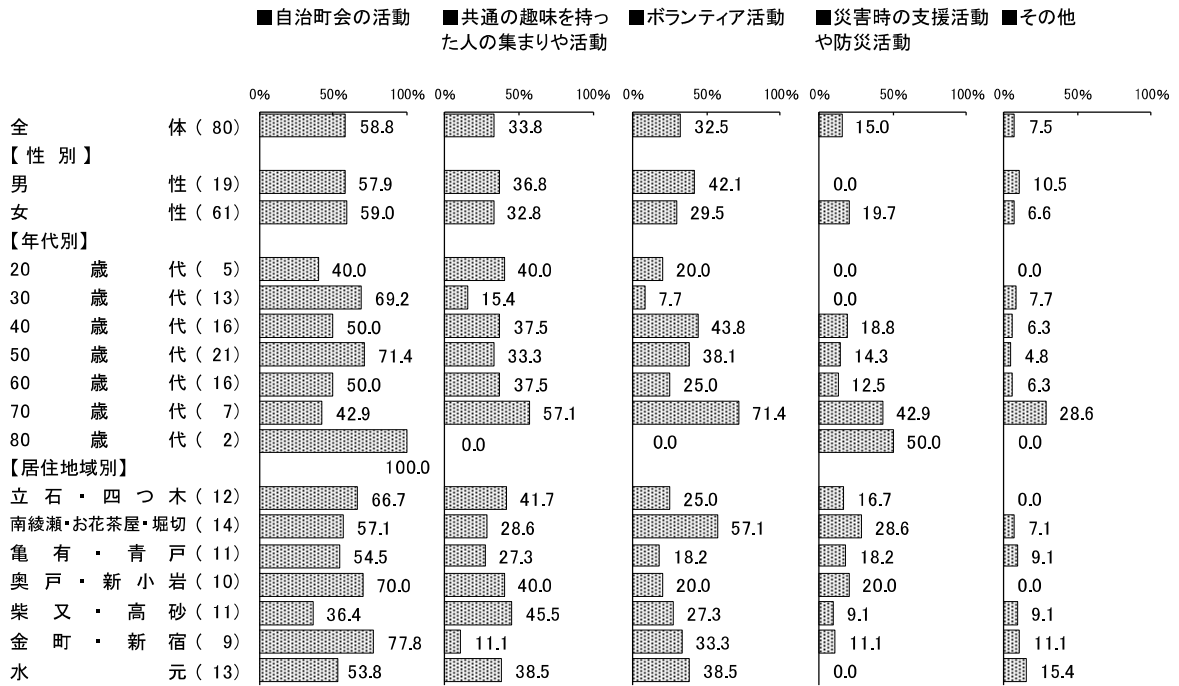
「その他」の意見としては、「葛飾区の子どもに関するイベント参加」、「シニアのツアー実施に携わっている」、「ロードレース」などがある。

図表-21 参加した地域活動（全体）



年代別で見ると、「自治町会の活動」は、20歳代と70歳代を除く全ての年代で5割以上となっている。「ボランティア活動」は、70歳代が71.4%で最も高く、「共通の趣味を持った人の集まりや活動」は、70歳代が57.1%で最も高い。

図表-22 参加した地域活動
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(13) 地域活動参加のきっかけ

問11で「1. ある」を選んだ方にお伺いします。

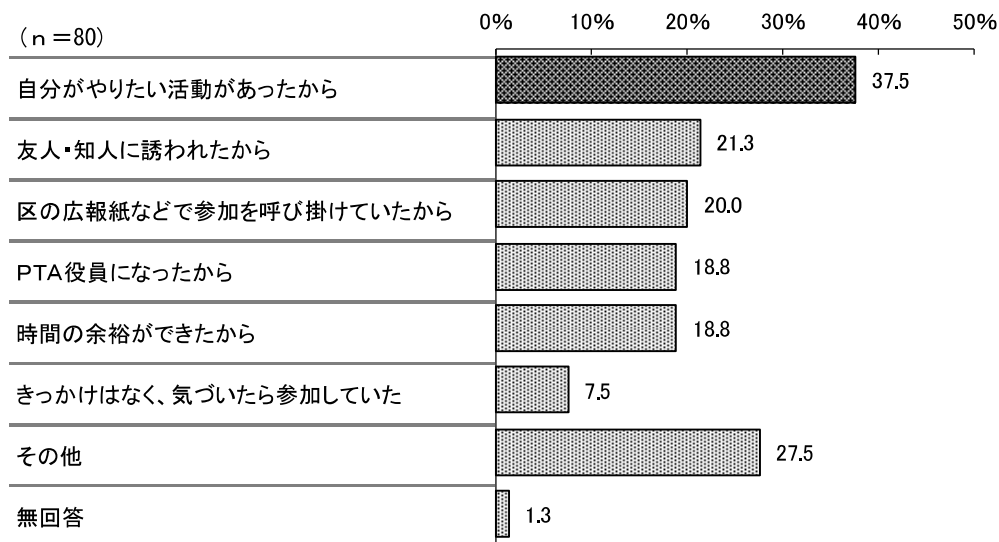
問13 あなたが地域での活動に参加したきっかけは何ですか？

(あてはまるものすべてに○)

地域での活動に参加したきっかけについては、「自分がやりたい活動があったから」が37.5%で最も高く、次いで「友人・知人に誘われたから」が21.3%、「区の広報紙などで参加を呼び掛けていたから」が20.0%となっている。

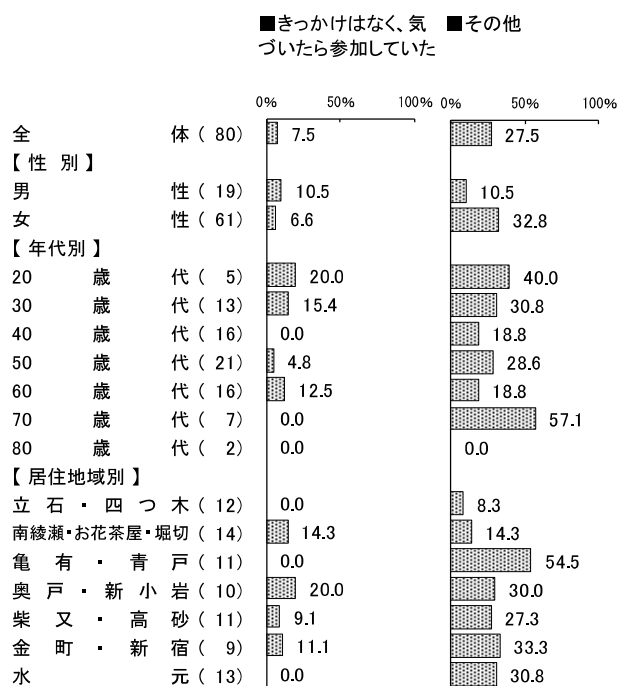
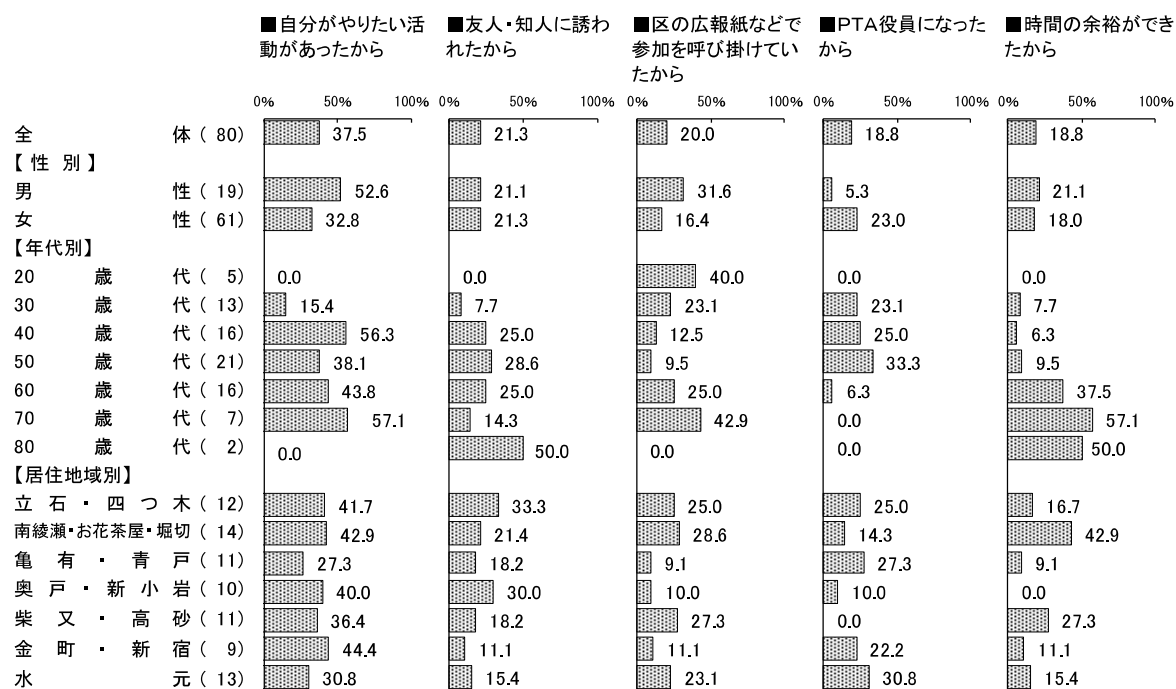
「その他」の意見としては、「自治会役員、子ども会役員になったから」、「町会の活動をしているから」、「ボランティア活動に関心があった」などがある。

図表-23 地域活動参加のきっかけ（全体）



年代別で見ると、「自分がやりたい活動があったから」は、40歳代と70歳代で5割台となっている。「時間の余裕ができたから」は、70歳代と80歳代で5割台となっており、「区の広報紙などで参加を呼び掛けていたから」は、20歳代と70歳代で4割台となっている。

図表-24 地域活動参加のきっかけ
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(14) 地域活動参加の理由

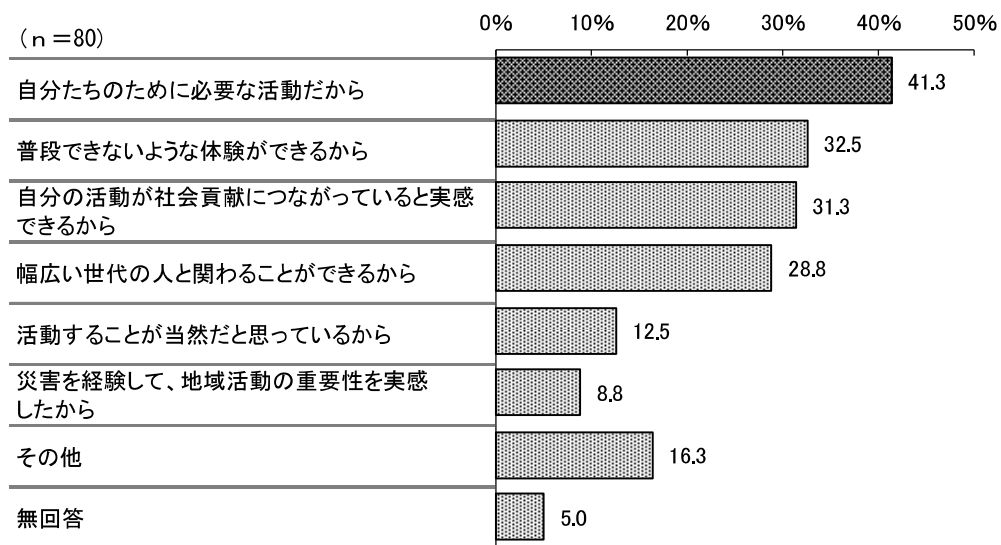
問 11 で「1. ある」を選んだ方にお伺いします。

問 14 あなたが地域での活動に参加した理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

地域での活動に参加した理由は、「自分たちのために必要な活動だから」が 41.3%で最も高く、「普段できないような体験ができるから」は、32.5%となっている。

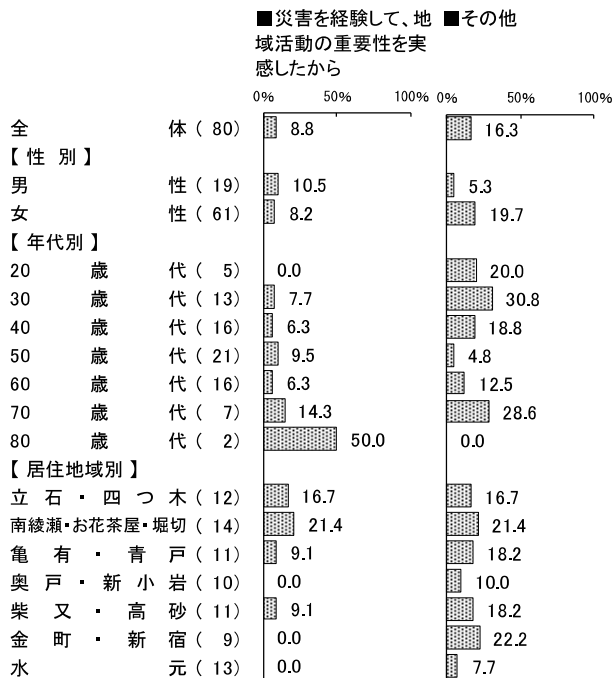
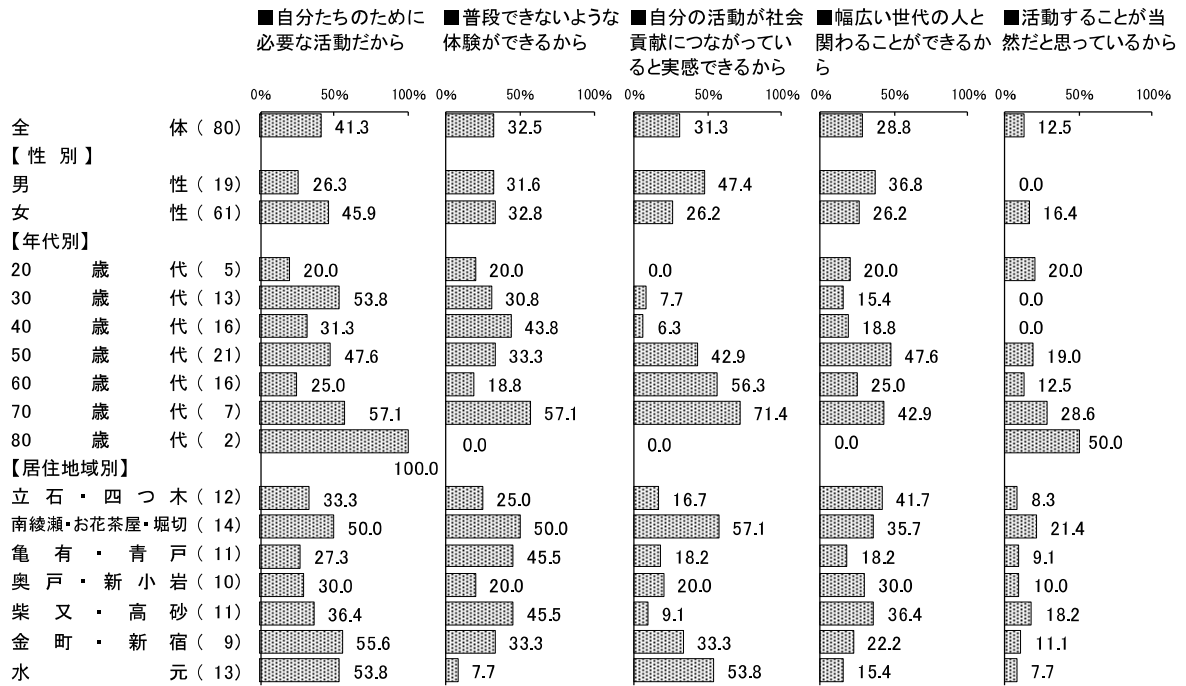
「その他」の意見としては、「子どもに地域活動を経験させたかったから」、「自分の住んでいる場所を住みやすい町にしたいから」などがある。

図表－25 地域活動参加の理由（全体）



地区別にみると、「自分の活動が社会貢献につながっていると実感できるから」は、南綾瀬・お花茶屋・堀切が57.1%で最も高く、次いで水元で53.8%となっている。

図表-26 地域活動参加の理由
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(15) 地域活動不参加の理由

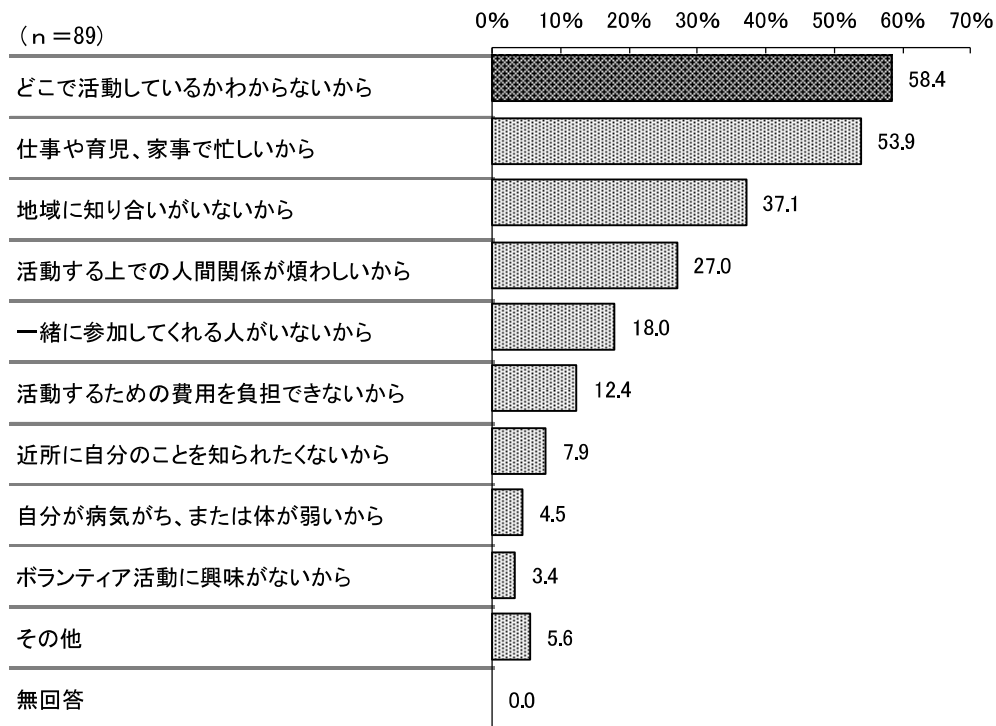
問 11 で「2. ない」を選んだ方にお伺いします。

問 15 地域での活動に参加しない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

地域での活動に参加しない理由は、「どこで活動しているかわからないから」が 58.4%で最も高く、「仕事や育児、家事で忙しいから」は、53.9%となっている。

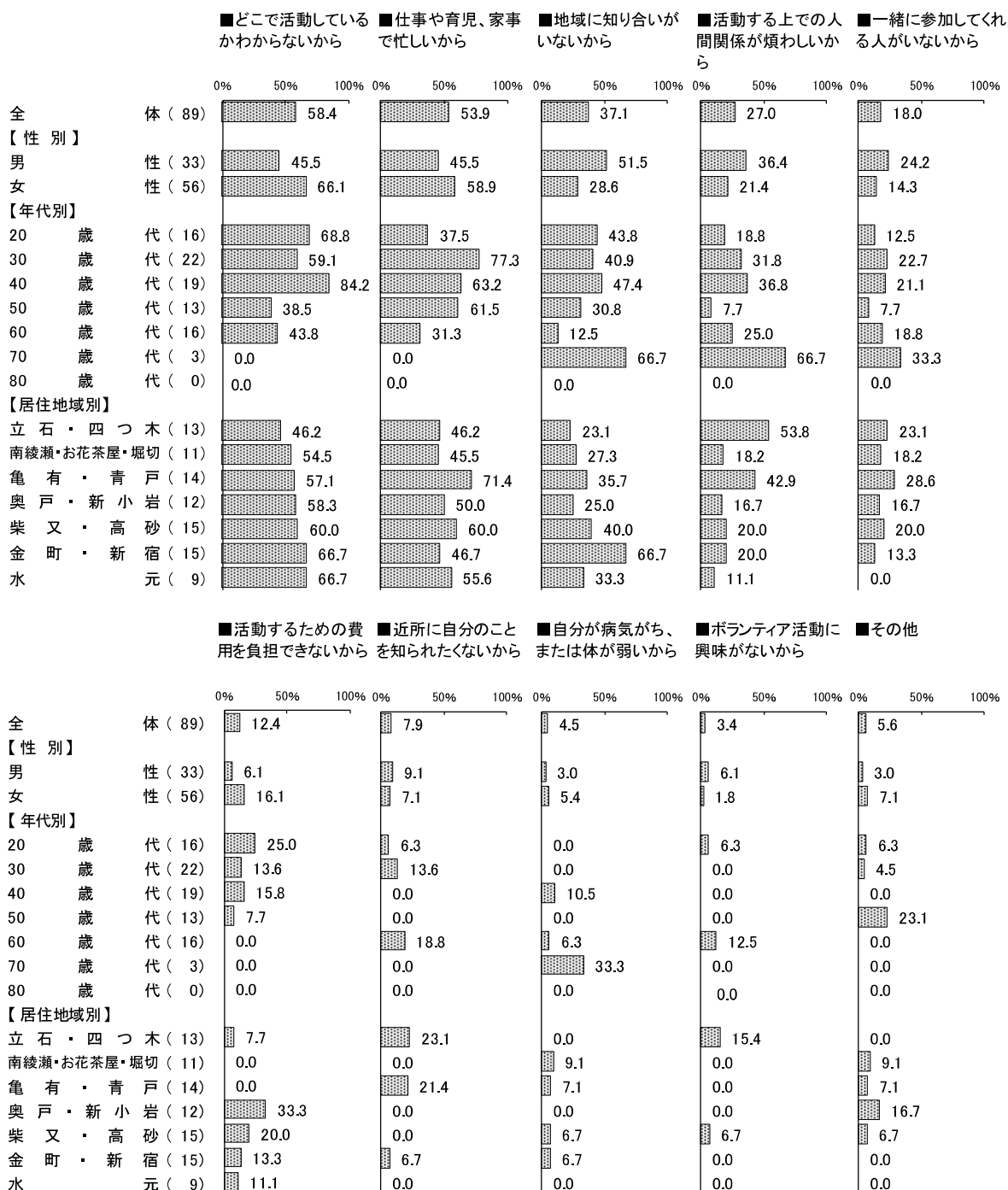
「その他」の意見としては、「コロナで町内会の行事が中止になっており参加できなかった」、「仕事が休みの日も疲れて活動できない」などがある。

図表-27 地域活動不参加の理由（全体）



年代別にみると、「どこで活動しているかわからないから」が、20歳代から40歳代で5割以上となっている。

図表-28 地域活動不参加の理由
(全体・性別・年代別・居住地域別)



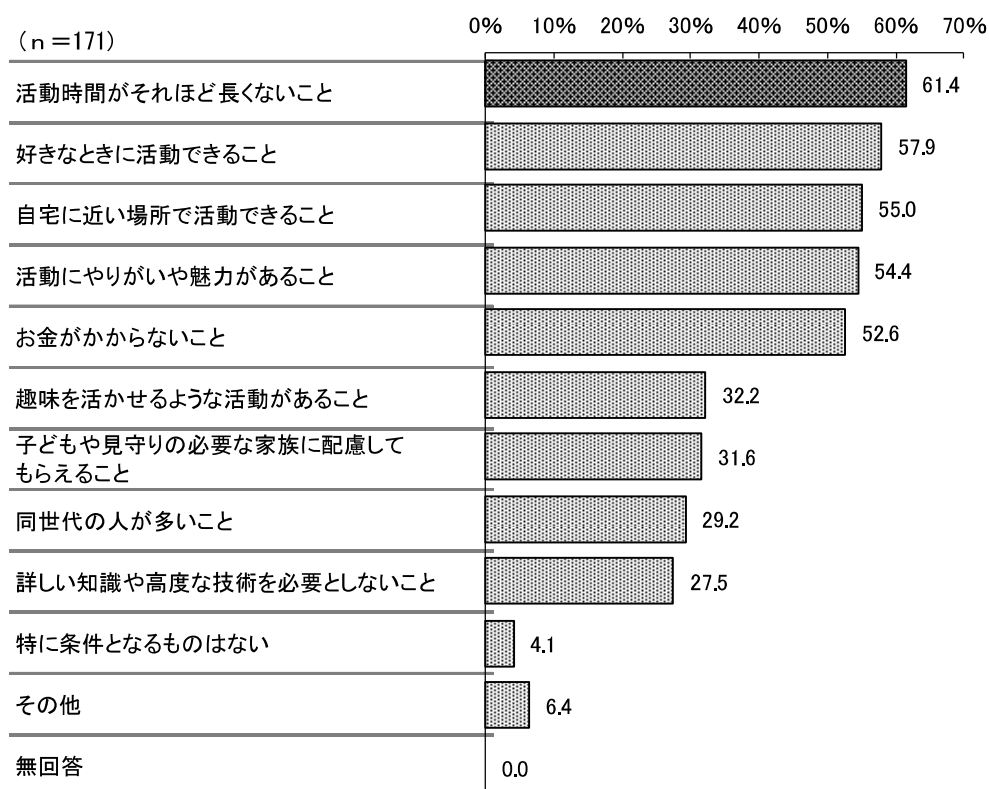
(16) 地域活動の必要な条件

問 16 地域での活動をより活発にしていくために必要な条件は、どのようなことだと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

地域での活動をより活発にしていくために必要な条件については、「活動時間がそれほど長くないこと」が61.4%で最も高く、次いで「好きなときに活動できること」が57.9%、「自宅に近い場所で活動できること」が55.0%となっている。

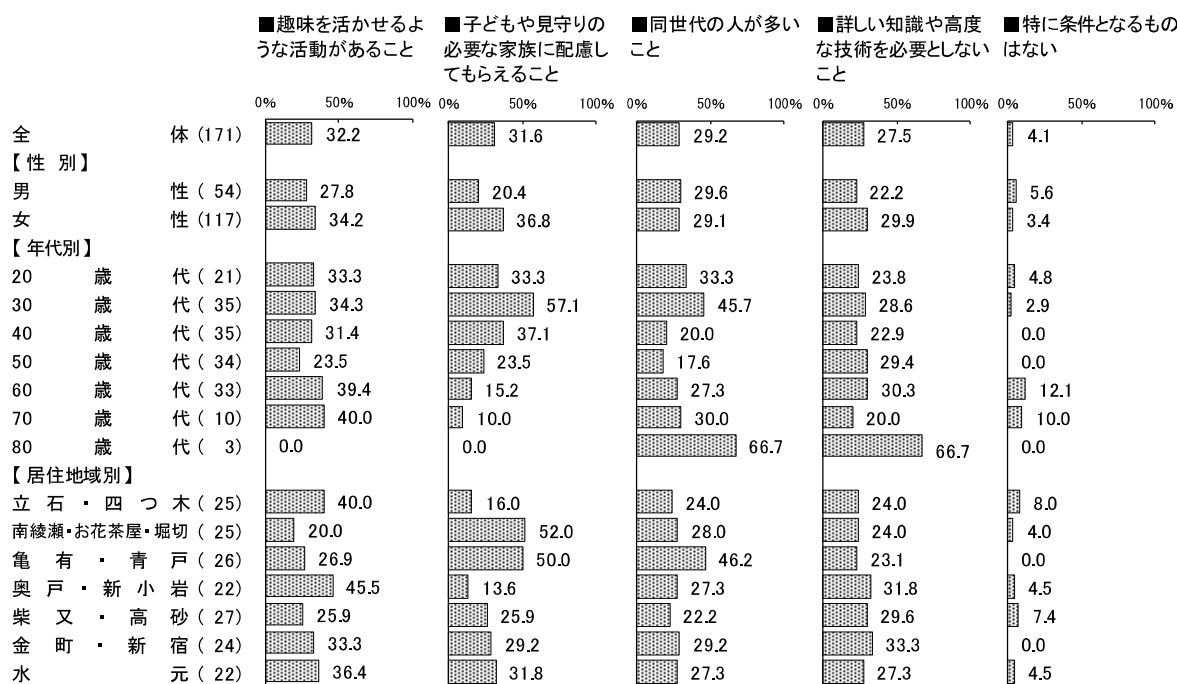
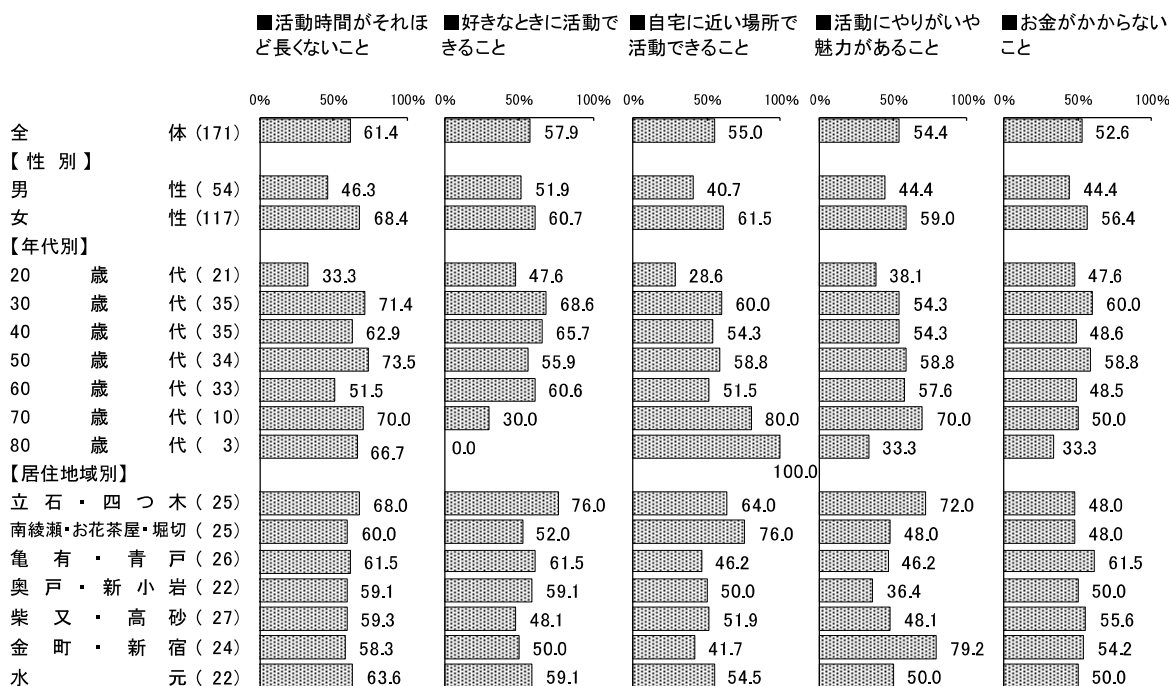
「その他」の意見としては、「区のサポート」、「告知を増やす」、「活動するときに、子どもを見てもらえる施設を設けてもらえること」などがある。

図表－29 地域活動の必要な条件（全体）



年代別で見ると、「活動時間がそれほど長くないこと」は、20歳代を除く全ての年代で5割以上となっており、30歳代、50歳代、70歳代では7割台となっている。「活動にやりがいや魅力があること」は、70歳代で70.0%と高く、「好きなときに活動できること」は、30歳代で68.6%と高くなっている。

図表一30 地域活動の必要な条件
(全体・性別・年代別・居住地域別—上位10項目)



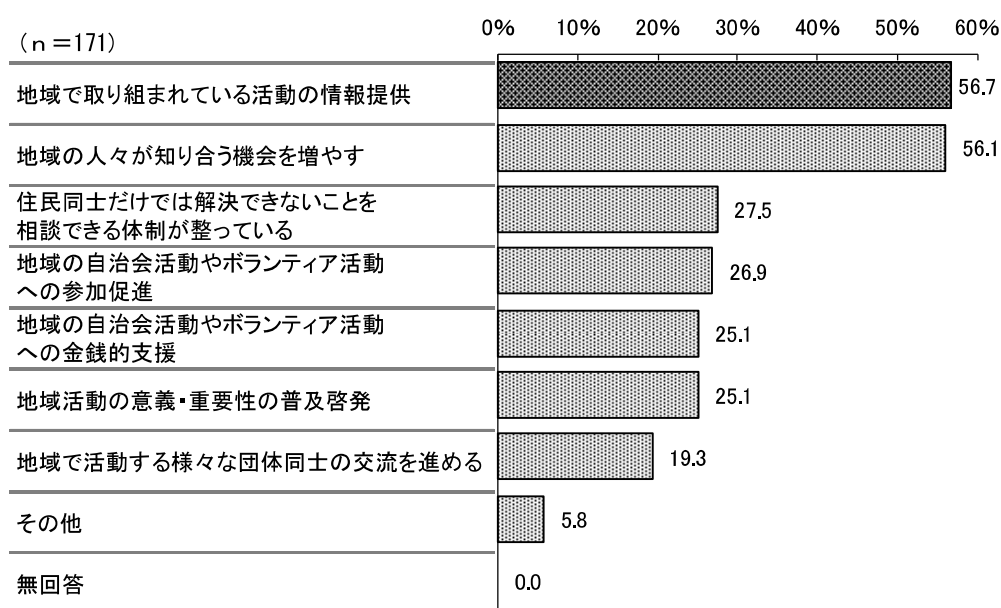
(17) 地域づくりの必要項目

問 17 住民同士が共に支えあう地域づくりを進めるために、どのようなことが必要だと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

住民同士が共に支えあう地域づくりを進めるために必要なことについては、「地域で取り組まれている活動の情報提供」が 56.7%で最も高く、次いで「地域の人々が知り合う機会を増やす」が 56.1%となっている。

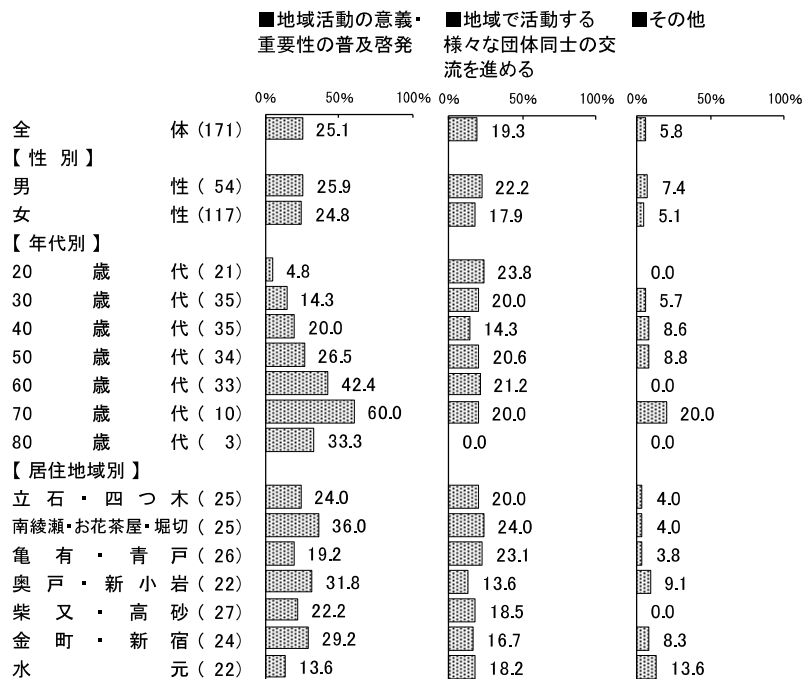
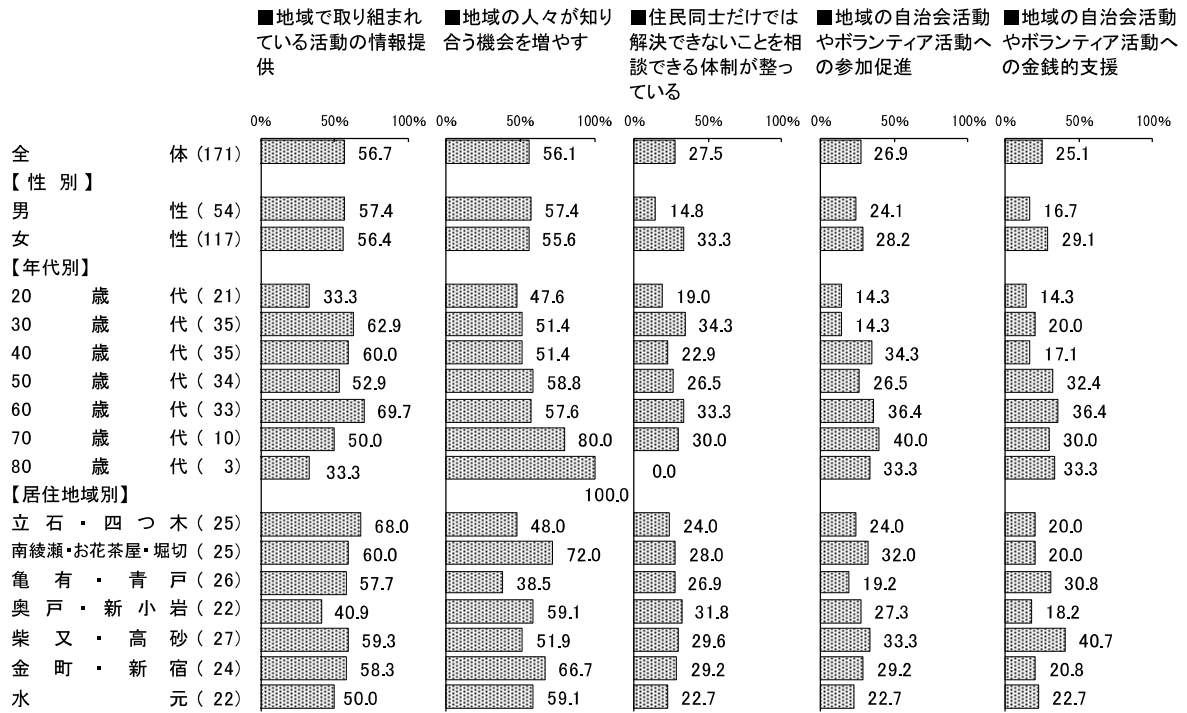
「その他」の意見としては、「行事を SNS や LINE などを使って周知する」、「活動の見える化」などがある。

図表-31 地域づくりの必要項目（全体）



年代別でみると、「地域で取り組まれている活動の情報提供」は、20歳代と80歳代を除く全ての年代で5割以上となっており、30歳代、40歳代、60歳代では、6割台となっている。「地域の人々が知り合う機会を増やす」は、全ての年代で4割以上となっている。

図表-32 地域づくりの必要項目
(全体・性別・年代別・居住地域別)



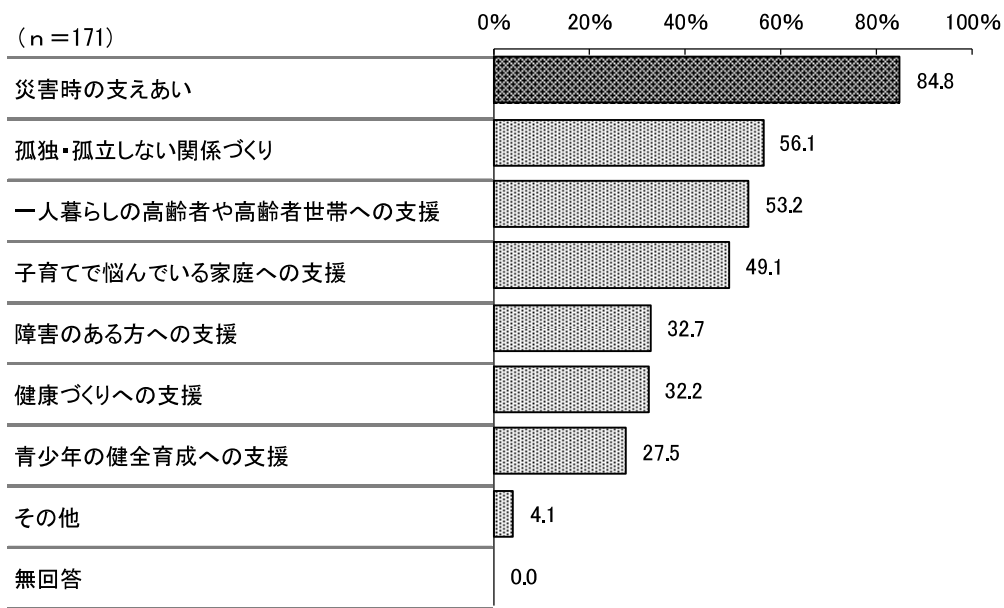
(18) 地域づくりに必要な取り組むべき問題

問 18 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な問題は、どのようなことだと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な問題については、「災害時の支えあい」が84.8%で最も高く、次いで「孤独・孤立しない関係づくり」が56.1%、「一人暮らしの高齢者や高齢者世帯への支援」が53.2%となっている。

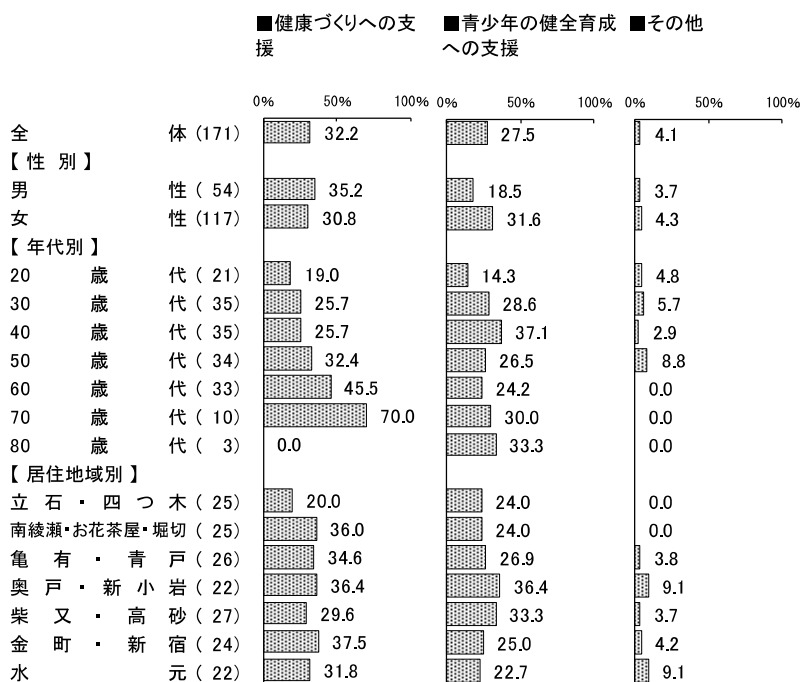
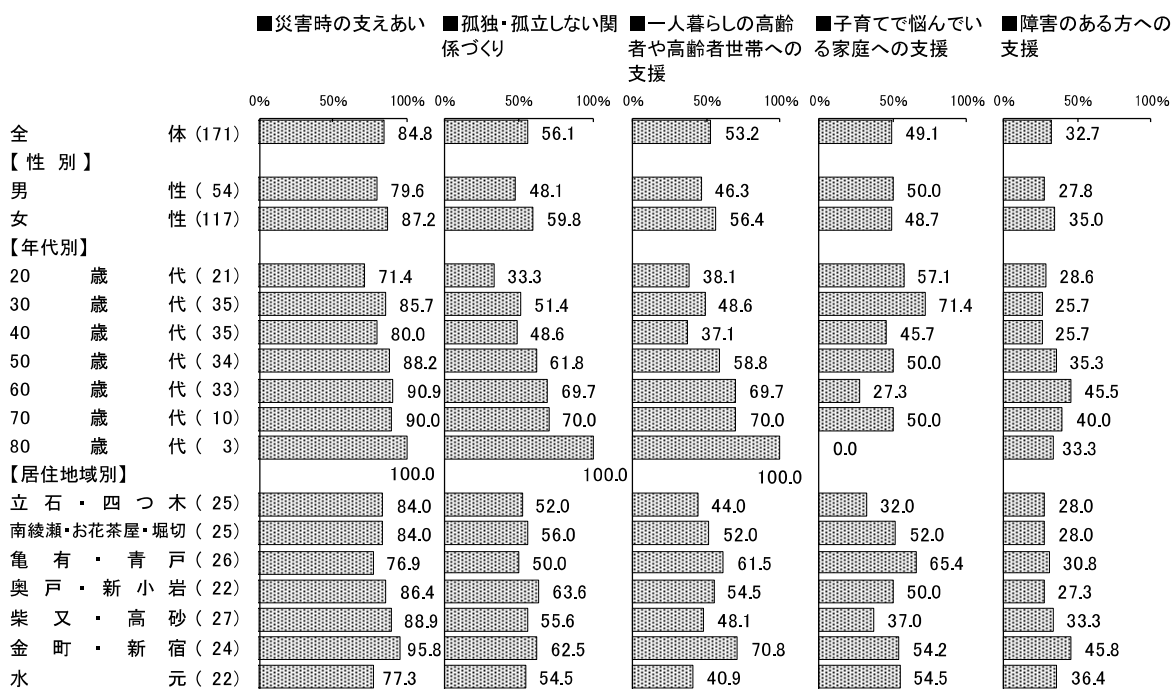
「その他」の意見としては、「防犯」、「子どもの登下校時の見守り」などがある。

図表-33 地域づくりに必要な取り組むべき問題（全体）



年代別で見ると、「災害時の支えあい」は、全ての年代で7割以上となっており、80歳代で100.0%と最も高くなっている。「子育てで悩んでいる家庭への支援」は、30歳代が71.4%で最も高く、次いで20歳代で57.1%となっている。

図表-34 地域づくりに必要な取り組むべき問題
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(19) 近所や知人で困っている人がいたら

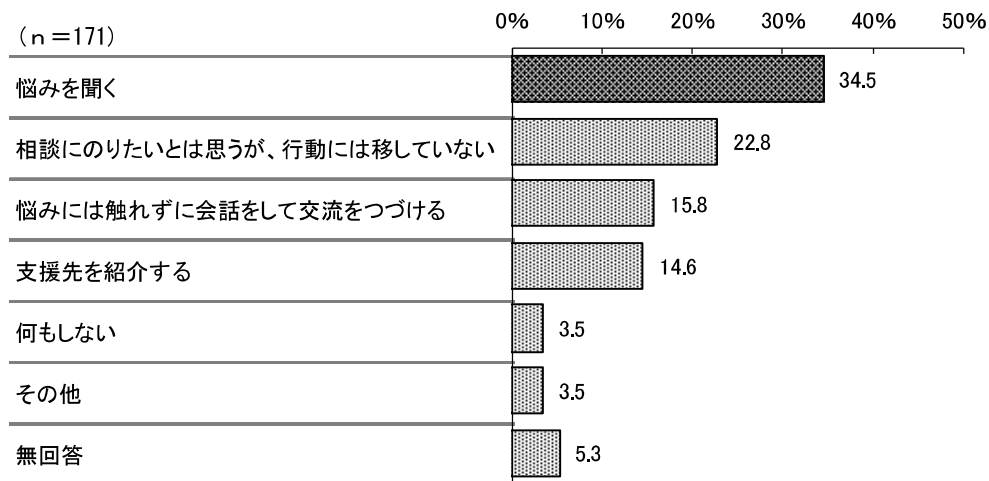
問 19 あなたは、近所や知人で困っている人がいたらどうしますか？（○は1つ）

近所や知人で困っている人がいたらどうするかは、「悩みを聞く」が34.5%で最も高く、次いで「相談にのりたいと思うが、行動には移していない」が22.8%、「悩みには触れずに会話をして交流をつづける」が15.8%となっている。

年代別で見ると、「悩みを聞く」は、20歳代、30歳代で4割台となっている。「悩みには触れずに会話をして交流をつづける」は、70歳代が50.0%で最も高くなっている。一方、20歳代は1割以下となっている。

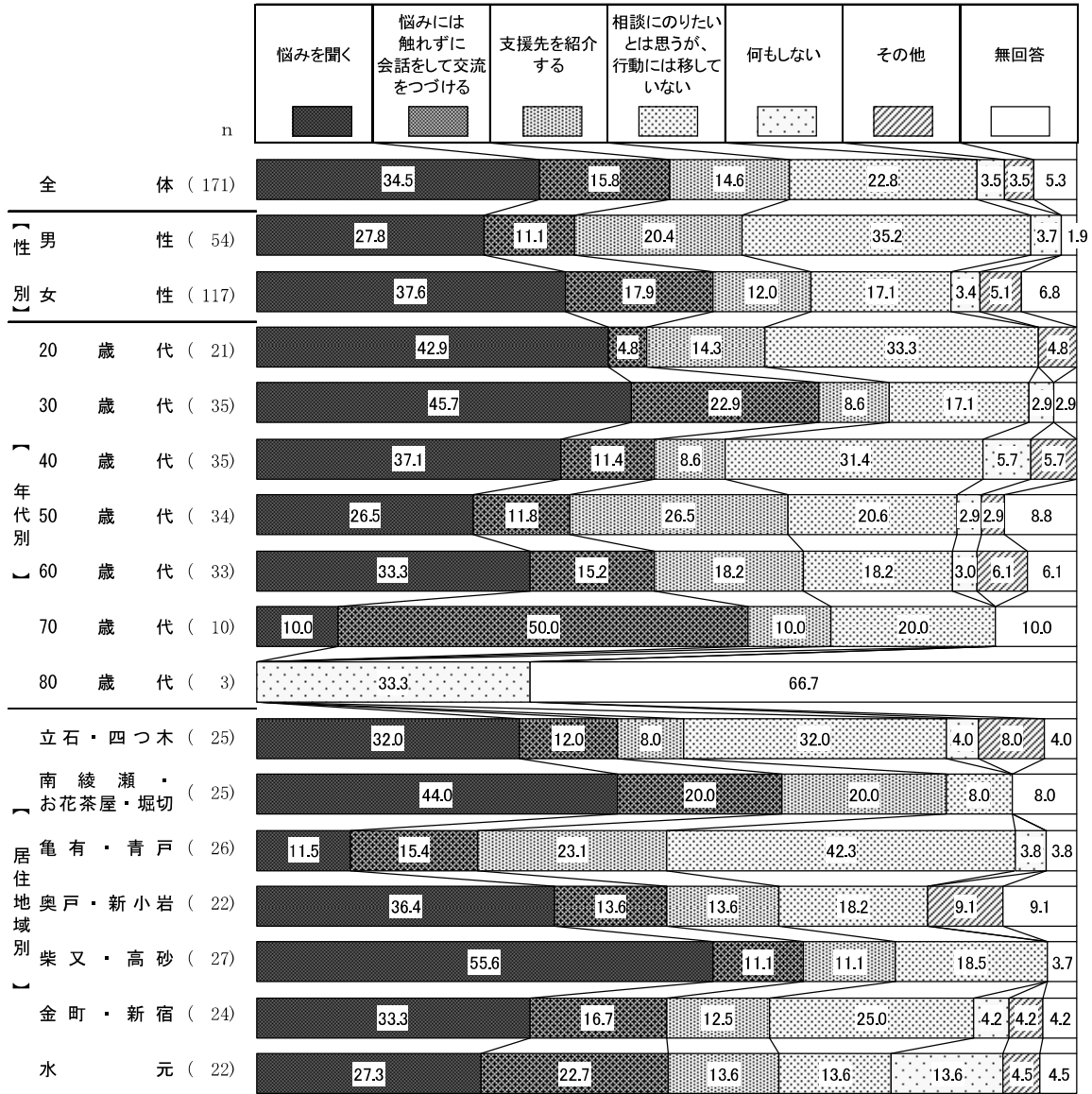
「その他」の意見としては、「相手のプライバシーを考え何もできない」などがある。

図表-35 近所や知人で困っている人がいたら（全体）



図表-36 近所や知人で困っている人がいたら
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(20) 行動には移していない（できない）理由

問 19 で「4. 相談にのりたいと思うが、行動には移していない」を選んだ方にお伺いします。

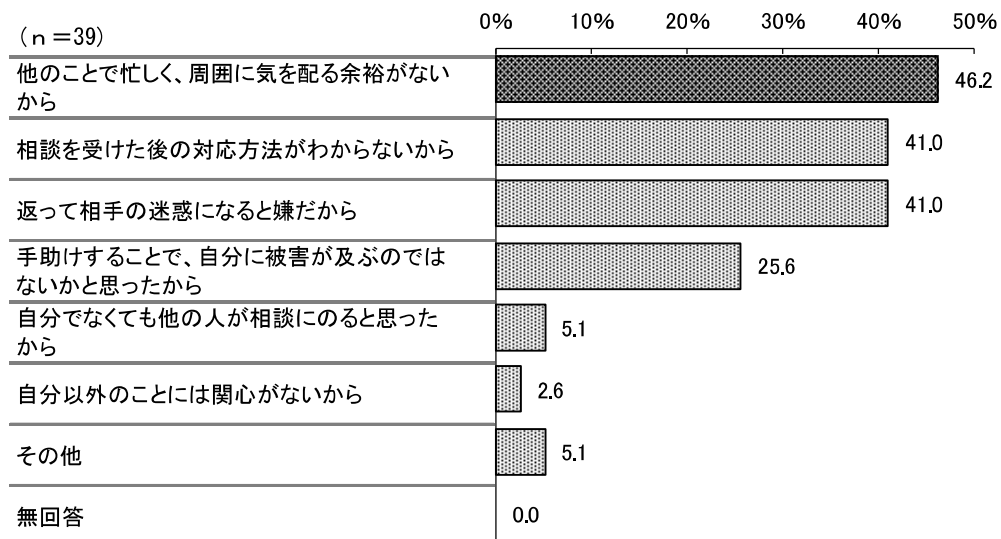
問 20 行動には移していない（できない）理由を教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

行動には移していない（できない）理由は、「他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから」が 46.2%で最も高く、次いで、「相談を受けた後の対応方法がわからないから」、「返って相手の迷惑になると嫌だから」がそれぞれ 41.0%となっている。

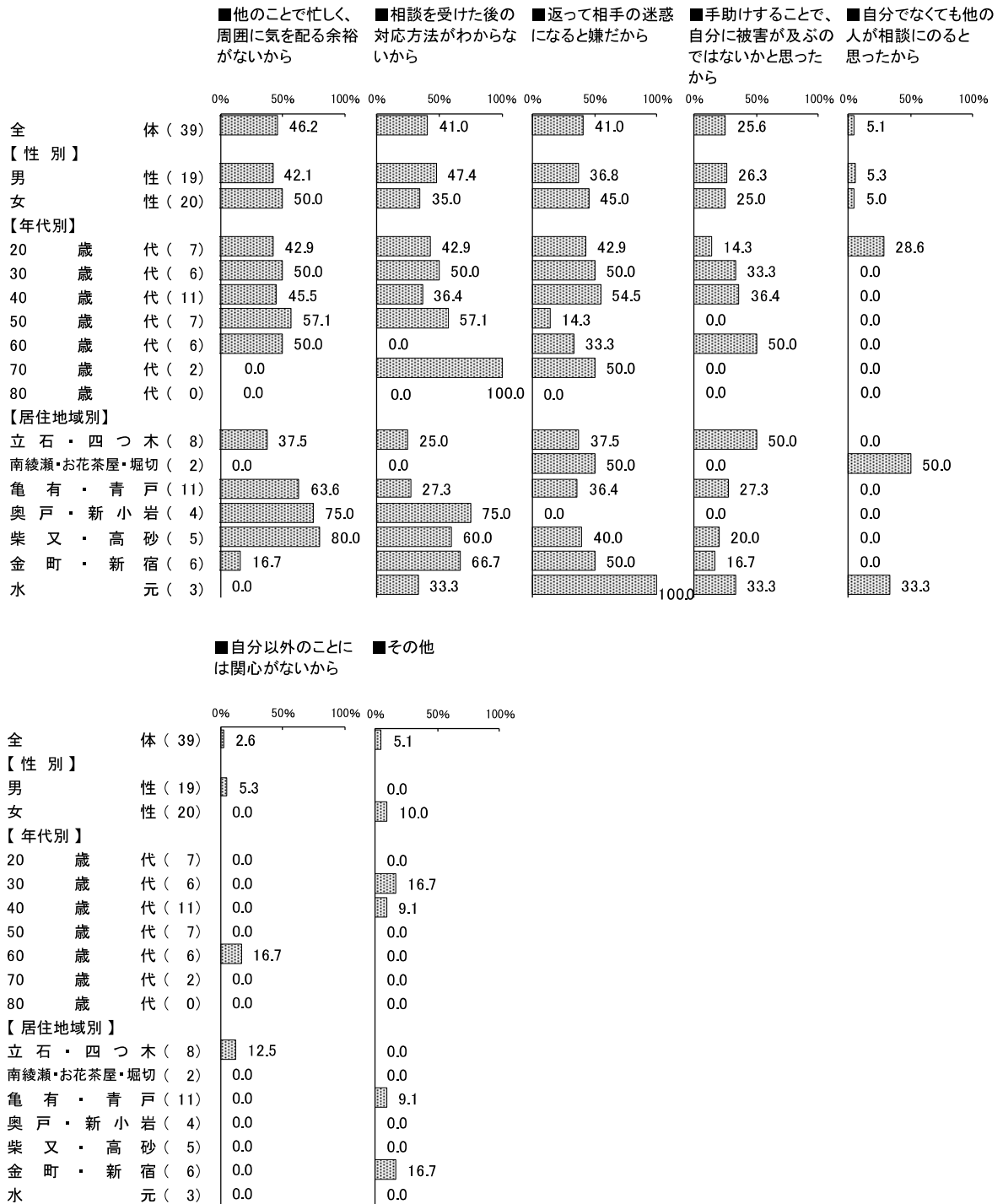
「その他」の意見としては、「手助けが必要なかわからないから」などがある。

図表－37 行動には移していない（できない）理由（全体）



年代別にみると、「他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから」は、70歳代、80歳代を除く全ての年代で4割以上となっており、50歳代が57.1%で最も高くなっている。「相談を受けた後の対応方法がわからないから」は、70歳代が100.0%で最も高くなっている。

図表-38 行動には移していない（できない）理由
（全体・性別・年代別・居住地域別）



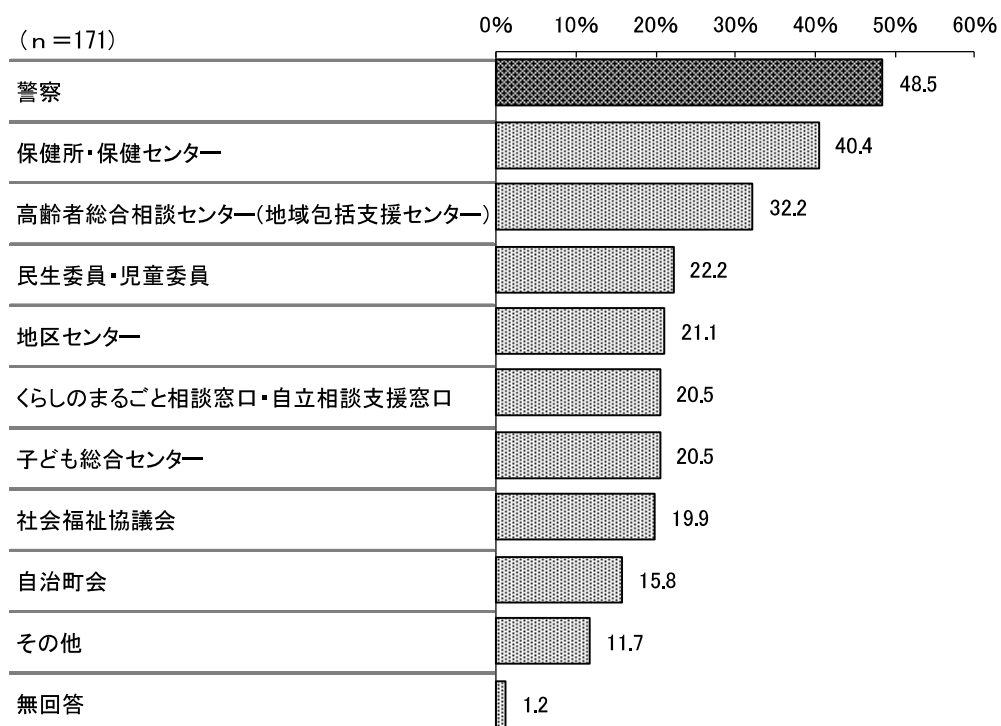
(21) 相談先として知っている場所

問 21 相談を受けた後で困ったときなどに、相談先として知っているのはどこですか？
(あてはまるものすべてに○)

相談を受けた後で困ったときなどに、相談先として知っているのはどこかについては、「警察」が48.5%で最も高く、次いで、「保健所・保健センター」が40.4%、「高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)」が32.2%となっている。

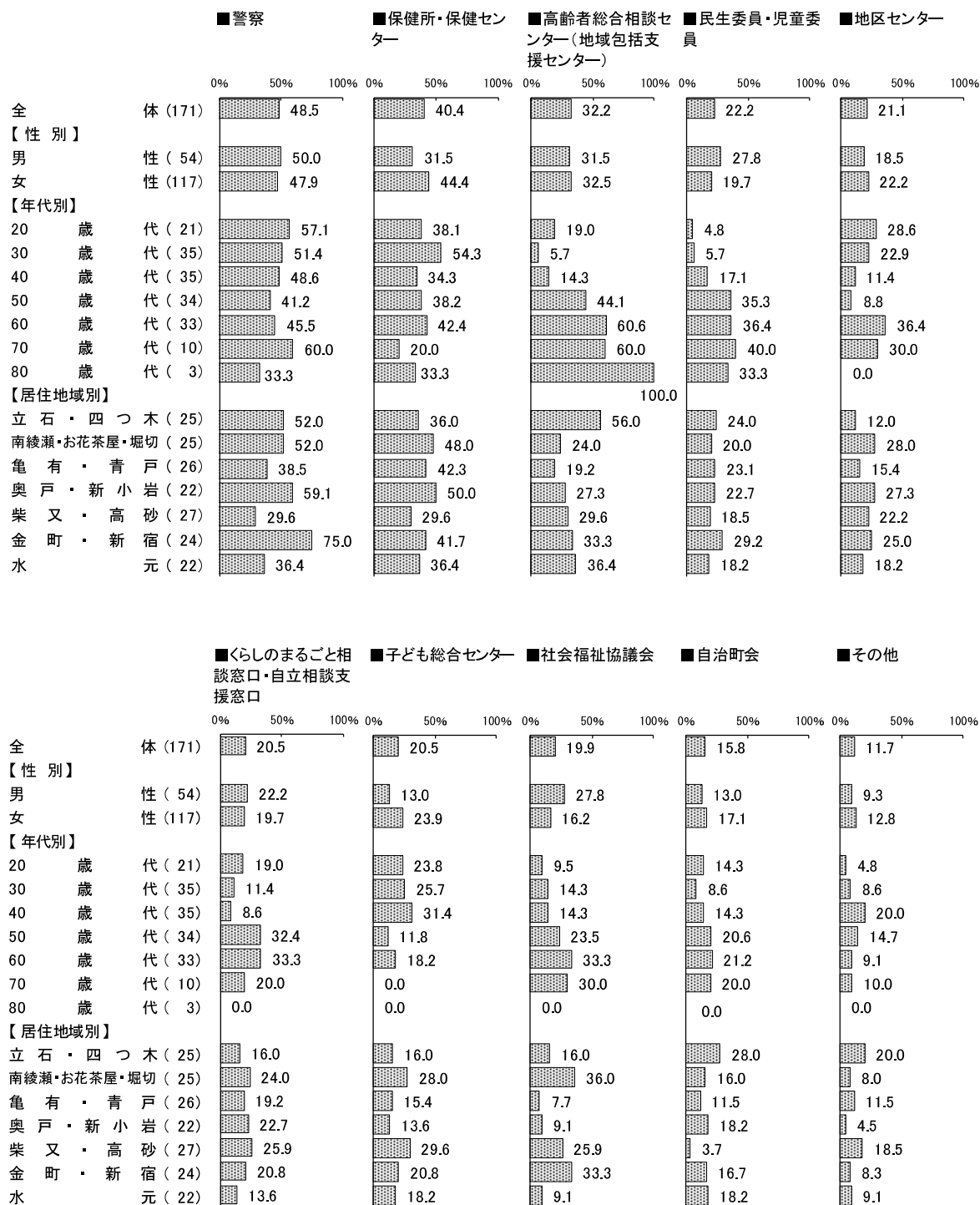
「その他」の意見としては、「葛飾区役所」、「区の相談窓口」、「消費生活センター」などがある。

図表-39 相談先として知っている場所 (全体)



年代別にみると、「警察」は、80歳代を除く全ての年代で4割以上となっており、70歳代が60.0%で最も高くなっている。「高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)」は、80歳代、60歳代、70歳代の順に高く、それぞれ6割以上となっている。

図表-40 相談先として知っている場所
(全体・性別・年代別・居住地域別)



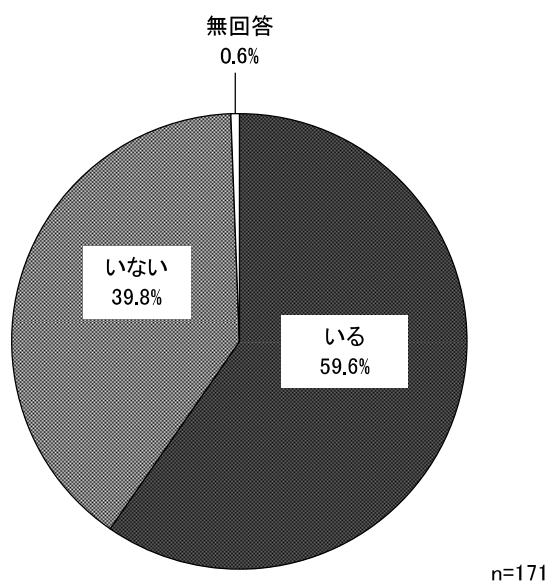
(22) 地域で頼れる人の有無

問 22 あなたが困ったとき、地域で頼れる人はいますか？（○は1つ）

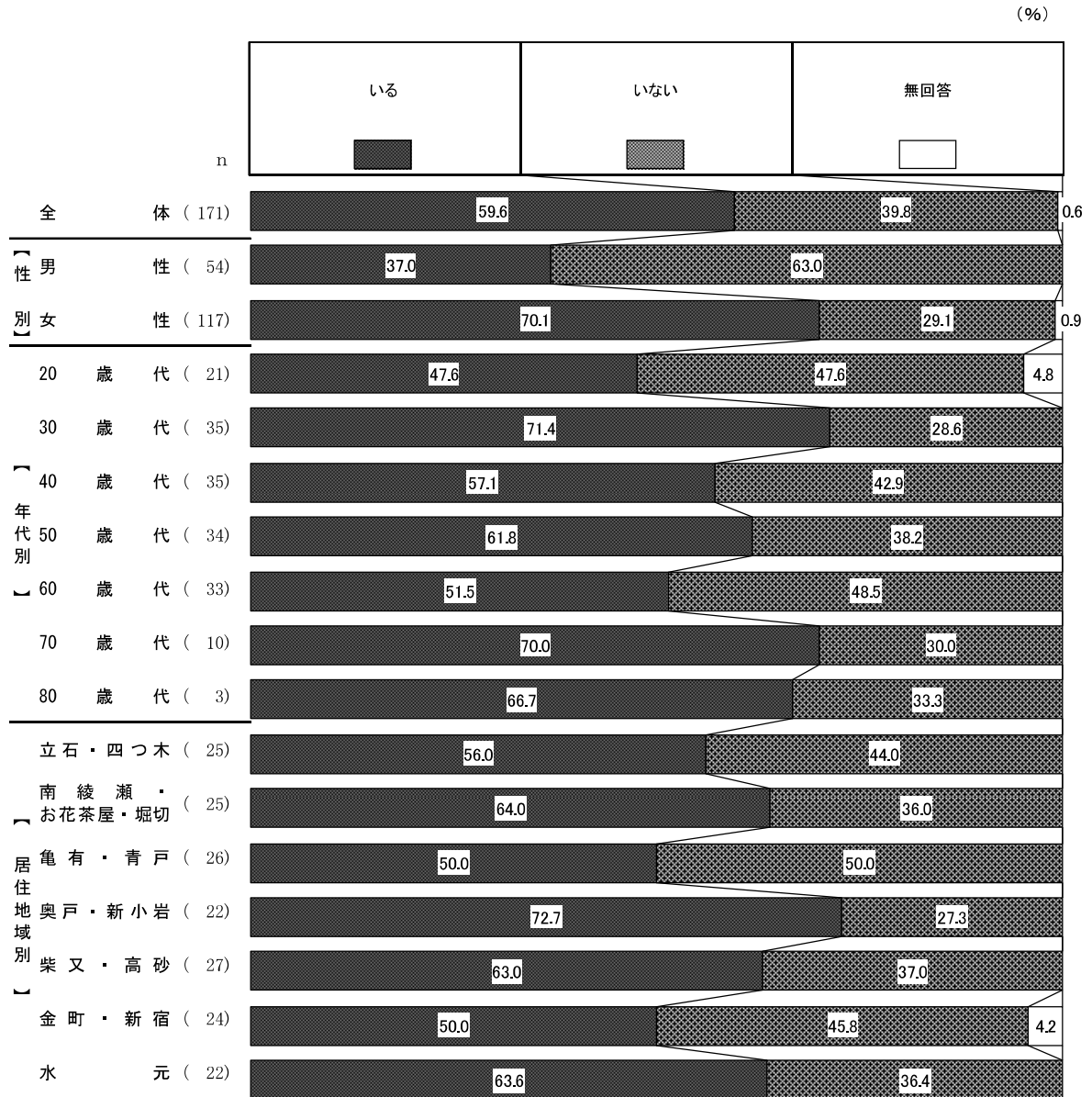
困ったとき、地域で頼れる人の有無は、59.6%の方が「いる」と回答している。

年代別で見ると、「いる」は、30歳代と70歳代で7割台となっている。一方、「いない」は、20歳代と40歳代と60歳代で4割台となっている。

図表-41 地域で頼れる人の有無（全体）



図表-42 地域で頼れる人の有無
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(23) 誰に頼っているか

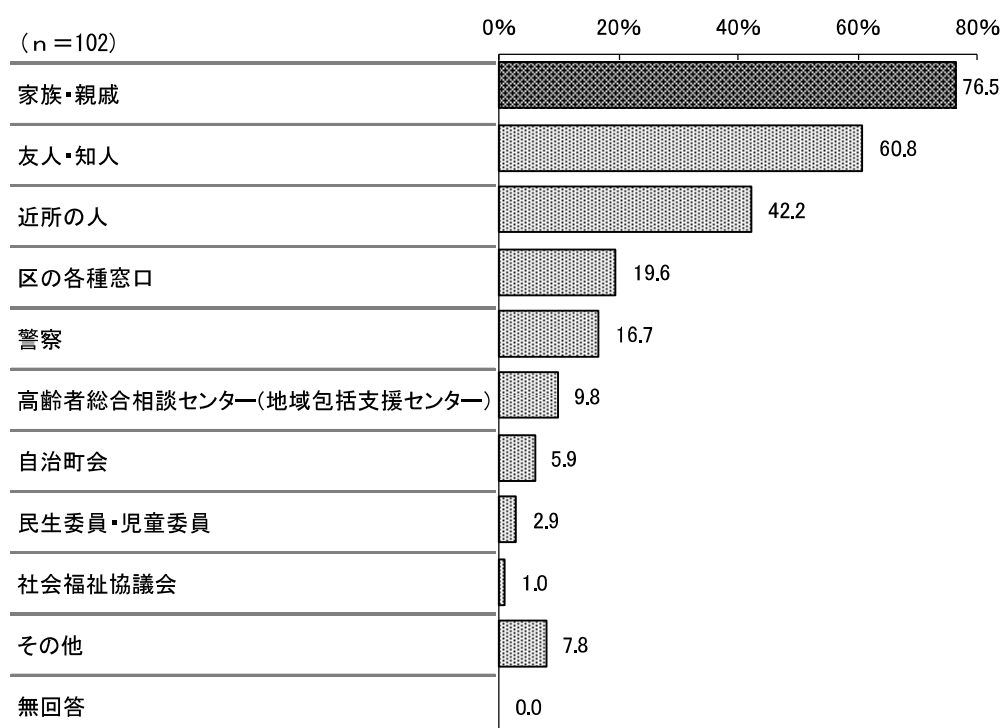
問 22 で「1. いる」を選んだ方にお伺いします。

問 23 誰に頼っていますか？（あてはまるものすべてに○）

誰に頼っているかについては、「家族・親戚」が 76.5%で最も高く、次いで「友人・知人」が 60.8%、「近所の人」が 42.2%となっている。

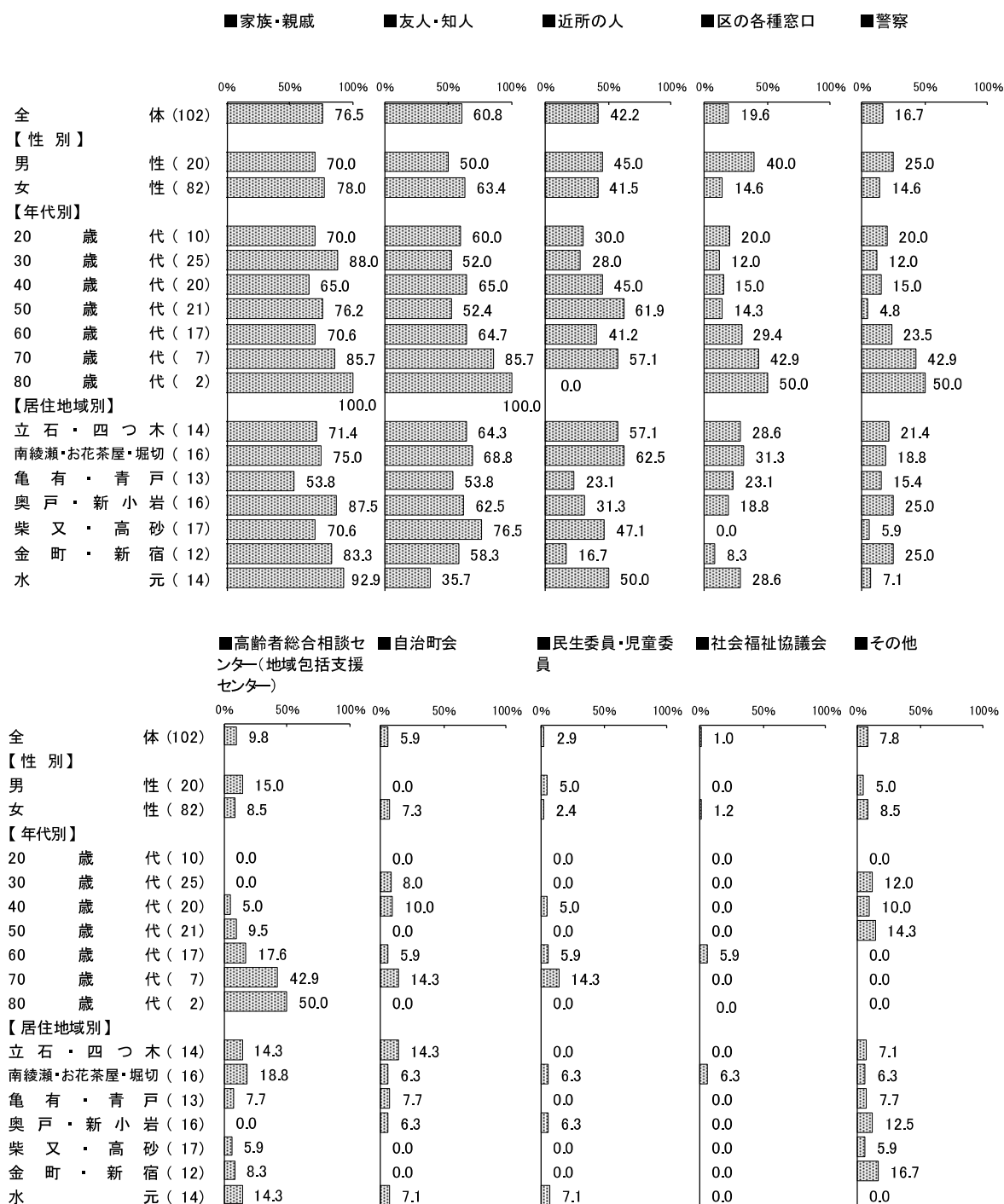
「その他」の意見としては、「主治医」、「保育園、幼稚園の先生」、「学校の先生」、「同僚」などがある。

図表－43 誰に頼っていますか（全体）



年代別でみると、「家族・親戚」は、全ての年代で6割以上となっており、30歳代と70歳代以上の年代で8割以上となっている。「友人・知人」は、全ての年代で5割以上となっており、70歳代以上の年代で8割以上となっている。「近所の人」は、50歳代が61.9%で最も高くなっている。

図表-44 誰に頼っていますか
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(24) 頼れる人がいない理由

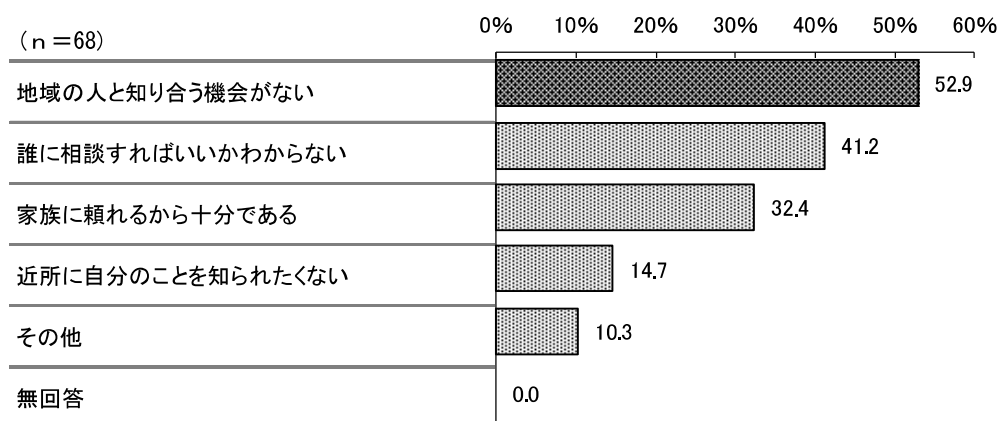
問 22 で「2. いない」を選んだ方にお伺いします。

問 24 地域で頼れる人がいない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

地域で頼れる人がいない理由については、「地域の人と知り合う機会がない」が 52.9%で最も高く、次いで「誰に相談すればいいかわからない」が 41.2%、「家族に頼れるから十分である」が 32.4%となっている。

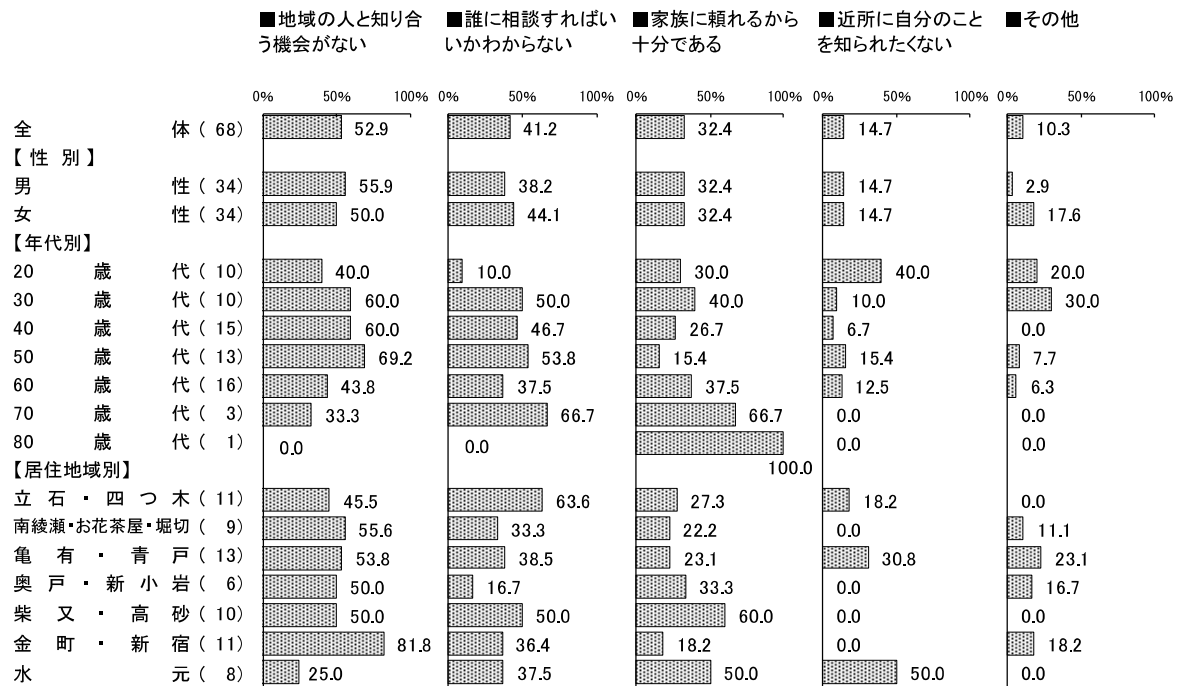
「その他」の意見としては、「あいさつするくらいの関係性しかないから」、「家庭の内容は知られたくないこともあるから」、「自分が忙しく、頼れる人と時間が合わないから」などがある。

図表-45 頼れる人がいない理由（全体）



年代別で見ると、「地域の人と知り合う機会がない」は、70歳代以上を除く全ての年代で4割以上となっており、30歳代、40歳代、50歳代で6割台となっている。「誰に相談すればいいかわからない」は、20歳代と80歳代を除く全ての年代で3割以上となっている。「近所に自分のことを知られたくない」は、20歳代が40.0%で最も高くなっている。

図表-46 頼れる人がいない理由
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(25) 地域福祉についてのご意見

問 25 地域福祉について、ご意見がありましたらご記入ください。(自由記述)

【主なご意見】

- ・子育てや障害のある子どもへの支援が不足していることをニュース等で目にするが、葛飾区の現状に関して知る機会がなかなかないことが残念。
- ・コロナで離職した看護師や障害のある看護師の働ける場所を提供してほしい。
- ・引っ越しの時のあいさつ程度しか近所の人と知り合う機会がない。出勤時間が重なればあいさつはするが、子どもの学校が違くと全く情報がなく、どんな人かわからない。
- ・地域活動を行っていききたいと思うが、地域の輪に入っていくのが難しい。お互いに助け合えるようにしていきたいと思う。
- ・高齢者が気軽に相談出来る所が近くにあると良いと思う。
- ・困ったことがあっても、相談できる場所を知らなかったり、知っていても最初の一步が踏み出せず、一人で抱え込んでいる人もいると思う。区に施設に様々なお知らせが置いてあるように、スーパーなどたくさんの人の目につく場所にも相談窓口のお知らせが置いてあれば、手に取りやすいのではないかなと思う。
- ・「地域福祉」自体何も考えたことがなかったので、今回この文言を知れて良かったと思う。
- ・福祉を受けたいけど、どこへ相談したらいいか悩んでいる方が必ずいると思う。区のお知らせ等でわかりやすく何度も記載した方が良いと思う。
- ・若い人も自分のこととして捉えられるような、幅広い年代が集まれるイベントなどが必要だと思う。
- ・街を歩き回りながら、あいさつを兼ねて地域の人達と気楽に話しができるようなグループ活動を組織して巡回したら良いと思う。
- ・町会でもっといろいろな取り組みができると思うが、活用できていないと感じる。
- ・人は一人では生きていけないので、地域でのつながりは大切なことだと思う。そのような機会を多く作ってほしい。